



#### 4. 百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の国内推薦に（2017年7月～12月）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-04-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 辻, 洋 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/16370">http://hdl.handle.net/10466/16370</a>

## 4. 百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の国内推薦に

(2017年7月～12月)

7月1日 渡欧レポート(1)

初めてのベルリン。フンボルト大学で二日間の学会で冒頭に話す機会をもらった。10年前にポーランドであった方や5年前にカンボジアであった方にも思いがけず再会し、世界の狭さを感じた。フンボルト大学といえば、グリム兄弟やアインシュタイン、コッホなどがいた名門大学だ。200年以上の歴史があるという。

緯度が高いせいか、朝早くから夜遅くまで明るい。瀬田先生に紹介頂いた先生に空港でピックアップしてもらって自宅に呼ばれ奥様の手料理を頂いた。ただ、到着してから嵐。フンボルト大学グッズの傘を頂いたが、あまりの風ですぐ骨が折れた。残念。



7月2日 渡欧レポート(2)

ベルリンというと我々の世代は、壁の崩壊が印象深い出来事だった。学会の初日が午後からだったので、午前中に、駆け足でアートになっている壁や逃亡者を監視したという塔をみた。どれだけの人がこれらでくるしめられたのだろうか。

電車には自転車乗り入れの車両があり、日本では考えられない車内だ。街は古く大きな木がいっぱいある。



7月3日 渡欧レポート(3)

パリでアンテナといえば、エッフェル塔。そこに府大でダブルデグリーを取得した留学生留学生OGがきてくれた。卒業後も来てくれるし、私がパリに来た時に時間があえば来てくれる(前は確か六人集まってくれた)。写真のFBアップも了解してくれ、府大グッズも見えるようにしてくれた。

フランスのヴァルドワーズ県の複数の大学との学生交換の歴史は長い。

なんとかこの繋がりが持続あるものにしたいものだ。情報を受発信するアンテナとして。

尚、空港到着時頃にセキュリティを通過せずに入った不審者がいて、二千人が緊急避難したそうだ。たまたまターミナルが違ったので難を逃れたが、ベルリンの嵐といい、いろいろなことがある。



#### 7月4日 渡欧レポート(4)

パリから列車でフランクフルトに向かって二時間半走るとカイザウストラウテルン。そこのDFKIにはこれまでも、今も、今後も多くの府大生が長期留学する。中には博士後期課程に完全に入る学生もいる。以前ここで紹介したスーパークリエイターに認定された石丸君も。あいにく彼は日本に出張中だったので居室の名札を撮影した。

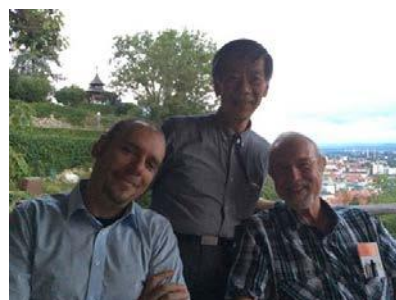
面会できた学長はバイオロジー関係。この関係でも交流できたらと思う。(抵抗はあるそうだが、ドイツ語でなく)英語の授業を増やし、(インドや中国などの)アジアからの優秀な留学生の受け入れをどんどん進めているという。さらに統合を含め、彼の在任中に学生数を10000人から17000人に増やしたそうだ。新しい寮も建設中だった。移民を多く受け入れるドイツだからこそだろうか。



#### 7月5日 渡欧レポート(5)

ヨーロッパ最後の訪問地はグラーツ。以前、府大に招聘教授として見えた認知科学の先生と化学の先生にお会いした。化学分野の先生のところに11月マテリアル分野の教員や学生が滞在するという。食事には、さらにお二人コンピュータサイエンスの先生を新たに紹介頂き、個々の交流の次のステップである組織レベルの交流をできないか問題意識を共有した。

グラーツは街が世界遺産。綺麗な街であり、学問、文化そして産業の街だ。有名な時計台は長針が時、短針が分を表す。もともと長針しかなかったそう。確かにゆったりしようと思えば、分を表す針など不要で、時だけ示してくれば時計として十分な気もする。



## 7月6日 7日(金)からアウェーで首都大戦

海外から羽田に戻り、明日から三日間は南大沢。今年のキャッチフレーズは、「英傑」。歴史ある定期戦を通して、それぞれ唯一無二の「才知のすぐれた人、英雄豪傑」を目指せという思いが込められている。

これまで、34勝26敗3引分。昨年はホームで勝っていて今年のアウェー。帽子、サングラス、日焼け止め、防寒着と応援の準備はした。

## 7月7日 東京パラリンピック正式種目”ボッチャ”の普及と選手育成を推進

ボッチャ日本代表強化指定選手の医科学合宿が所沢にある国立障害者リハビリテーションセンターで行われている。その場にお邪魔して、杏林大学と連携協定を締結した。

杏林大学の保健学部の学生さんたちの多くがボッチャの公式審判員の資格をもっているという。ルールはそれほど難しくないし、サッカーやラグビーと違って審判員が走り回ることはないのも、比較的取りやすいのだろう。練習拠点として、西が府大なら、東が杏林大というような形になればいいと思う。

ボッチャ協会に登録されている選手は220名程度にすぎず、競技人口の拡大、若手選手の発掘・育成、選手の強化が期待されている。社会では弱者、病院では患者の方を、スポーツでヒーローになっていただき、多くの人を勇気づけたり、人生を見つめなおす機会を与えたりしていただきたい。

府大関係者なら、誰もがボッチャを知っていて、一度はやってみたというようになってほしい。ちなみに道具は学長室に常備していて、いつでも貸し出しをする。

## 7月8日 首都大戦速報(1)

応援団の果たし状。最後に団長が投げつけたのが、とても格好良かった。



## 7月8日 首都大戦速報(2)

選手宣誓。果たして、優勝旗、優勝カップは戻ってくるだろうか。府大の揃った部旗が揃うのはなかなか見ごたえがある。来年、府大で開会式を行うときは、地域も人にも見てもらってはどうか。

### 7月8日 首都大戦速報(3)

ラグビーを直近で見たのは初めて。ぶつかり合う音がすごい。マネージャーも大量の水と痛み止め(?)のスプレーを持って走りまわっている。どう考えても冬のスポーツ。選手の皆さんには怪我が軽傷であることを望む。



### 7月8日 首都大戦速報(4)

ハンドボール、テニス、応援団、体操、バレーボール、バスケットボール。弓道も応援に行ったが撮影できる雰囲気ではなく自粛。皆様、お疲れ様でした。



### 7月8日 首都大戦速報(5)

1日目は4勝敗。2日目がスタート。卓球(開始前)、女子バスケット(練習)、サッカー、そして硬式野球。



### 7月8日 首都大戦速報(6)

2日目の最後はアイスホッケー。練習が始まっています。今手元も届いているこれまでの成績は9勝11敗。まだ、総合優勝はどちらかわかりません。





### 7月9日 首都大戦速報(最終)

12勝16敗で、総合優勝は首都大。関係者の皆さん、お疲れ様でした。素晴らしいプレーをいっぱい見せてもらった。ありがとう。昨年から、負けた方の体育会委員長が閉会式で丸刈りになることになり、千種君がバリカンを入れられた。首都大の上野学長のお孫さんが、七夕で「府大戦、必勝」と書いたのが実現したと開会式で披露され、閉会式でも言及された。

来年はホームで。エキジビションマッチに近隣の方にも参加を呼びかけ盛り上がることはできないだろうか。大学スポーツでの地域連携、地域貢献なども考えて欲しい。



### 7月10日 9月に台湾を訪問予定

先日ヨーロッパを訪問したが、9月に台湾政府から招へいしていただき、いくつかの大学をまわることになった。これまでの交流を評価していただいたものと思ひ、関係者(交換留学に行ったり来たりした学生を含む)に感謝するとともに、さらなる深い(部局をも超えた)組織間の交流になるように準備をしっかりとしようと思う。

今の計画では、次を回れそうだ。国立東華大學、国立臺灣大學、教育部(日本でいう文科省)、国立臺南大學、国立臺灣師範大學、国立臺北科技大學、淡江大學。さらに、柳名誉教授が客員でおられる国立交通大學(新竹市)の訪問希望を出している。このうち国立臺灣師範大學、国立臺北科技大學、淡江大學では、本学と各大学の学術交流協定の更新について「調印」をしたいと思っている。上記の大学と交流があればぜひ、お知らせを頂きたい。

### 7月11日 田間先生が内閣総理大臣賞受賞

おめでとうございます。田間先生。長年、女性研究者支援センターの牽引、ダイバーシティ研究環境研究所の設立など、男女共同参画ができる大学づくりに貢献いただきありがとうございます。



今回、このような大きな賞を受けられたことを心からお喜び申し上げます。先生のご尽力で多くの方がまわりに集まり、活発な活動になったことも嬉しく思っています。今後ご指導よろしくお願ひします。

(トロフィを持たせていただいた。とても重い。透明だが、角度によっ

て虹色に光る。それを光らせたくていろいろな角度で持たせていただいた。指紋をつけてしまったが、赦して頂きたい)

## 7月12日 植物工場研究センターのコンソーシアム会員企業のサロン

大学の産学連携では、個々の教員が個別のテーマで共同研究して新製品を生み出すだけでなく、組織レベルである大きなテーマに取り組んで産業を興す気概が求められている。本学の植物工場研究センターではコンソーシアムをつくり、多くの企業の方に会員にな



っていただき、勉強会を行ったり、意見交換を行っている。生産側の立場だけでなく、消費者側の立場、それを仲介する立場などいろいろな視点がないと新しい産業は生まれない。



昨日、7月11日、そこに呼ばれて「システムと農業」という題でお話をさせて頂いた。5分ぐらい導入を話したあとは、ワインやビールを片手に1時間弱話を聴いていただいた。

経営工学的な視点の話、データ処理から情報処理にシフトしている時代の流れ、サービスビジネスなどの話をしたのち、最後は十八番の天橋立、流れ星、利晶の杜の地図の話で締めくくった。その後、食べ物も出て意見交換の場も持てた。

近く、レタスのレシピコンテストが開催される。多くの学生、教職員はじめすべての府大関係者に参加してもらい、盛り上がりたいものだ。

## 7月13日 植物工場生産のレタス試食会とレシピコンテスト

既にいろいろなところで広報しているので、ご存知の方も多いかもしれない。生産サイドの技術面から考えるだけでなく、消費サイドのニーズ面から考えることが大切だ。この視点からの取組。府大関係者を対象としている、この「関係者」というのは、広〜〜くとらえて頂いていいと思う。少しでも盛り上がるように。

**レタス試食会 & レシピコンテスト**

対象者: 府大関係者の学生および教職員

賞品(抽選):

- 最優秀賞: 3万円分
- 優秀賞: 1万円分
- PFC賞: 1万円分

～レタス試食会 & 工場見学会～

日時: 2017年7月19日(水)・27日(木) 16:40～18:25(開)

会場: なかもぎキャンパス(植物工場研究センター)C21棟

申し込み: 事前申込み不要(当日直接会場にて受付)

～レシピコンテスト～

①もりもりレタスを食べる

②朝食で手軽にレタスを食べる

③友

### 1. 試食会

内容: 「府大マルシェ」レタス2種類(フリルレタス、バタビアレタス)を試食します

日時: 2017年7月19日(水)、27日(木)、場所: C21棟2階研修室

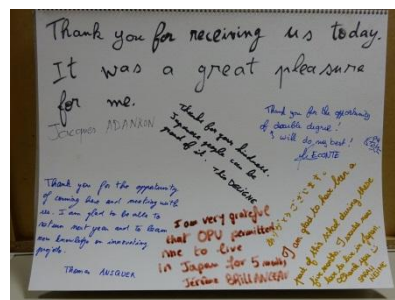
### 2. レシピコンテスト

内容: 「府大マルシェ」の愛称で生産・出荷している「フリルレタス」と「バタビアレタス」いずれか又は両方を主役として、①もりもりレタスを食べる、②朝食で手軽にレタスを食べる、③友

達とおしゃれにレタスを食べる、いずれかの部門を選択し、オリジナルで各テーマに合った素敵なレシピを応募ください。(45分以内で作ることができるレシピ)

### 7月14日 久々の360度写真

毎年フランスから3~4か月の交換留学生がやってくる。もう10年続いている。今年も6人来てくれたというので部屋に来てもらった。チューターらも一緒に来てくれたので、同時に記念撮影はやはり360度写真。



彼らの何人かは、再度来日してダブルデグリーにチャレンジするという。フランスではクラス授業ばかりなので、研究室に入り、先生や学生と一緒に研究するのがとても楽しいようだ。日本語もだいぶまくなっている。受け入れの皆さん、日本語を教えてくれている皆さんに感謝するし、府大生もぜひフランスに留学してほしい。

### 7月15日 府大高専女子会 ROSE

ROSEとは、Rookies On Science & Engineering Explorersの略で高専の女子生徒が、2014年府大の理系女子大学院生チームIRISの活動報告会に参加した時に触発されて、活動を始めた会である。R(リケジョやったら)O(大阪の)S(幸町に)E(えーやつおるで)の略だとROSEメンバーが言ったという話も聞いた。



昨日、指導にあっている先生方のお話とともに二人の生徒の活動報告を聞いた。一人は「高専女子フォーラムに参加して：土木系女子として中学生に伝えたかったこと」もう一人は「ワガヤネヤガワ小学生科学実験教室」。どちらも素晴らしい活動であり報告であったが、法人の中では十分広報できていないという反省も残った。

公立大学法人大阪府立大学という「法人」のなかに、大阪府立大学という「大学」と大阪府立大学工業高等専門学校高専という「高専」があることの意義については、(女子学生の活動だけでなく)いろいろな面で、多くの方に考えてもらい、議論して、相乗効果を追求し続けることが大切だ。

### 7月16日 特別シンポジウムの案内

重複するかもしれないが、「SOGI(性的指向、性自認)の多様性と学生支援について」と題したシンポジウムが企画されている。なぜ、必要なのかをみんなで考えてほしい。

○日時 平成29年7月18日(火)13:00~15:30

○場所 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス

学生交流会館(C1棟)多目的ホール



### 7月17日 三連休はゆっくり

学長室からFBで発信をしだして一年半。原則一日一投稿。もっと自分を出したいと思うこともあるが、少し抑え気味に慎重に。ときどき誤字脱字だけでなく、先走った情報を書きそうになった



こともあるが、広報の皆さんが文面チェックしてくれているので、とても安心だ。

発信していると、ときどき「見ていますよ」とか「あの話はいいいですね」と声をかけてもらえることもある。そうはいうものの私が知っていることはまだまだ **Greater OPU**（教職員や学生だけでなく、卒業生や地域の皆さん、保護者の方ふくめ、府大に関係するすべて）の一部だろう。

何かここで発信したほうがいい話があれば、ぜひ教えてほしい。アンテナとして情報を受信し、アンテナとして情報を発信していきたい。そして、世界中に府大のアンテナができればと最近よく思う。府大にはいろいろなアンテナがあるので、それらについても機会をみて書こうと思っている。

#### 7月18日 公務員として働く OB/OG による パネル討論

去る13日、今年度第一回の **COC** フォーラムがあり、公務員としてご活躍の三名の方に登壇いただいた。

お一人は行政職として一昨年に卒業された林さん。現在、堺市北区役所。お二人目は社会福祉局の猪原さん。大阪府東大阪子ども家庭センター相談対応課で活躍。三人目は、大阪市の造園職として建設局造園緑化部に勤務されている木下さん。

あいにく私は話をお聞きできなかったが、卒業生が母港に戻ってきて話をしてくださるのはとても嬉しいし、ありがたい。**Greater OPU** として地(知)の拠点になるために。スパイラルに大学と地域が連携することが大切だ。

課題解決&地域貢献=>教育研究の向上

教育研究の向上 =>課題解決&地域貢献



#### 7月19日 いつやりたいことを見つけられるか

将棋の藤井聡太四段の活躍が素晴らしかった。彼は幼くして自分のやりたいことを見つけ、その道で大きな花を咲かせようとしている。人生で誰もが自分のやりたいことをどのタイミングで見つけられるか分からない。職を持つ前に、必ず見つけなければならないのかも分からない。

もし、府大在学中に「それまでは思ってもいなかった世界が見えるようになった」なら、それほど嬉しいことはない。卒業後であっても「府大で見聞きしてきたことが刺激になって・・・」ということであれば、それも嬉しい。

一方で「悪い思い出だけが残った」という話を聴くととても悲しい。しかし、それも受け止めてそのようなことがないように努力していくしかない。

いろいろな学生の話をお聴いていると、そこから誰もが何か気づいていなかったことを学ぶことができる。**Influencer** と **Influencee** であってほしい。自分を紹介してもいいという学生もいてくれる。その中から何人かに「保護者のためのオープンキャンパス」で話をしてもらった。

#### 7月20日 本部の廊下のデコレーション

4月に大学本部をA1棟からA11棟に移した。以来、廊下の掲示が少し寂しかった。そこで、まず、昨年度受けた認証評価の結



果を飾った。研究活動、地域貢献活動のどちらも「極めて有効」という結果を示すことができた。他にも大学の沿革などを近く掲示するようお願いしている。

7月21日 大きな賞をもらうということ

誰もが褒められると嬉しい。賞をもらうとやはり嬉しい。それが文部科学大臣賞というような賞だと驚いてしまう。

その賞を受賞した藤野さんから話を聞いたのは以前にこのFBでも書いた。(私はサインも頂いた)。5月にあった「保護者のためのオープンキャンパス」で話をしてもらったところ、参加者から「(参加者だけでなく)これなかった方々にも聞いてもらいたい」「(保護者だけでなく)学生にも聞いてもらいたい」という声があり、広報課からご本人の同意も得て、公開をはじめた。既に、大学のFBからも発信されているので、重複した情報になるが、どんな学生生活だったか、ぜひ聞いてほしい。



7月22日 府大のアンテナ(1)

先日来予告していた府大のアンテナを少しずつ紹介していこう。最初はキャリアサポート室。在学生の就職相談だけでなく、卒業生の相談にも応じている。また、就職の時期になった学生だけでなく、入学直後の学生についても相談に乗っている。

今はA11棟の1Fに部屋がある。一学年1300人強いるのだから、学生数から見るともったこのアンテナに耳を傾けても(フォロワーが増えても)いいような気がする。

7月23日 府大のアンテナ(2)

You TubeにOPU Channelというのがあって、そこから府大情報を発信している。前日の「保護者のためのオープンキャンパス」での映像もそこから見るができる。

本学の特徴ある教育プログラムの映像も順次アップするようお願いしている。府大の特徴的な学生が登場する4分強の映像。「らしさ」が出ているだろうか?

7月24日 21研と「連」

田中優子先生の「江戸から見る2040年」というお話を伺い、本学の21研との対応を考えてみた。教員と一部の職員以外にはなじみが少ないかもしれないが、本学の21研は

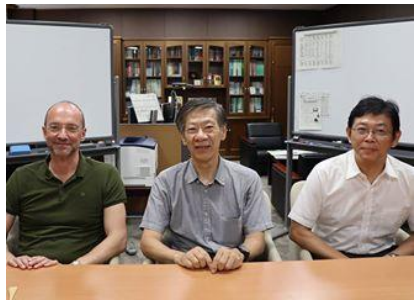
- (1) 異分野の部局の教員が集まって研究所をつくる
- (2) 期間は3年で、継続も可
- (3) 外部の方の参加も可(むしろ奨励して客員研究員として招聘)
- (4) 予算は原則つけない(大学の方針でつけることもある)
- (5)・・・

というものだ。江戸時代の「連」は

- (1) 適正規模を保っている
- (2) 世話役はいるが強力なリーダーはいない
- (3) 金銭が関わらない
- (4) 常に何かを創造している
- (5) 外（個人にも他のグループにも）に開かれている
- (6) 多様で豊かな情報を受け取っている
- (7) 存続を目的としていない
- (8) メンバーと同一化せず、メンバーと無関係にもならない
- (9) 多様な年齢、性、職業が混じっている
- (10) 多名である（中心となる職業＝専門と違った自分）

ということだ。江戸の知恵として、研究ネットワーク作りにヒントがあるかもしれない。どうだろう。面白い。270年間、内戦も国外との戦争も回避し、鎖国ということをしながらも、海外との

通商関係を樹立し、世界中の情報をあつめ、持続可能社会を作っていた江戸時代。海外技術を国産技術へ転換して、大量の職業を創り、「モノづくり日本」を創造した江戸時代。なぜ、我々だけでなく今後の社会を担う学生が歴史や哲学を学ばなければならないのか、こういうお話を伺うと疑う余地はない。



#### 7月25日 ドイツ人工知能研究所デンゲル先生来日（18日）

先日、ヨーロッパ出張のときにお世話になったデンゲル先生。写真に示すように府大の客員教授（21研）でもある。最近、政治家、日系企業や日本の大学の訪問者も多く、この Certificate は目立つようだ。これも府大のアンテナの機能を果たしてくれている（と思う）。

府大所属として、科研費に応募して採択となり、その関係での来日。21研を活用した、Greater OPU を構築していけるならこんなに嬉しいことはない。今回は、技術移転の講演もしてくださり、職員の参加もあった。

#### 7月26日 FIND OUT: F-udai In-side D-iscoveries O-PU U-seful T-tool

府大のアンテナの1つとして、高校生向けに「やりたいこと」を探索するツールを立てた。スマホで利用されることを想定している。



府大で心理学を学ぶことができたり、管理栄養士の資格取得をめざせたり、水族館ガールをめざせたりするようなキーワードから入って、府大の学びを調べられるようにしている。

まずは、ブックマーク。「府大の中にあるものを発見する、OPUの有益なツール」ということで名づけられているがどうだろう。これから、どんどん成長・発展していくのでぜひフォローしてほしい。

## 7月27日 鳥人間コンテスト：ディスタンス部門

今年もこの季節がやってきた。この週末だ。結果はテレビ放送があるまで言えない。一昨年、優勝と知りながら、放映が終わるまで黙っておかなければならない辛さ。もちろん、優勝でなくても結果は話せない。今年もその辛さの時期だ。

三人の代表が「頑張ってきます」という挨拶に来てくれて、Tシャツにサインをしてくれた。練習の様子とか分担をどうしているのかとか楽しく質問させてもらった。達成感を感じる前夜なのだろうか。府大に来て、鳥人間に出会って、彼らの人生に影響はあったらだろうか。つついっという目で見えてしまう。



## 7月28日 Jean-Pascal Sutter 先生と懇談

理学系研究科の細越先生が 招へいされているフランスの錯体化学研究所の Sutter 先生と 昼食を一緒にした。ちょうど、週末に控えている鳥人間のTシャツを2枚持っていたので、コンテストの概略を説明して1枚をプレゼントした。

フランスは 長期休暇 (バケーションだ) を取る。平日もそれほど残業はなく (39.5時間と言っていたと記憶する)、夜にメールのチェックなどするのは (最近では) 稀になっている。

一方で 大学の学費は とても安く、高齢者サービスもあり、税金もいほど 高くないという。どうなっているのだろうか？ 移民を積極的に受け入れているからだろうか。

高齢者へのサービスを 厚くすると、税金が高くなり、給付型の奨学金を それほど出せないという国との違いは どういうからくりになっているのだろうか。なんか、こんな疑問が 沸いたランチだった。



## 7月29日 UCB 共同シンポジウム

8月3日 (木) 13:30~17:30 学術交流会館にて、堺市・バークレー市姉妹都市 50周年事業のひとつを開催する (一般に広く公開、通訳つき)。

1972年~1985年の13年間、当時の農学部とUCBは交換留学を相互に行っていた。50周年をきっかけとし、カリフォルニアでご活躍中の本学シリコンバレーOB井上正弘氏にUCBとのご縁をつないでいただいたことをきっかけに、私が4月に本シンポジウム基調講演の Louise A. Mazingo 教授を訪問。井上氏はシンポジウムではパネラーとして登壇。このシンポジウムは、今後の両校の交流を発展させていきたい。開会のあいさつには竹山市長も出席される。



7月30日 「百舌鳥・古市古墳群の世界文化遺産国内推薦の結果を報告する会」

とうとうその日が明日になった。今年度の国内推薦が、7月31日（月）開催の文化審議会世界文化遺産部会において決定する。その結果は、電話で入るそうだ。私は、登録を応援する市民の会の副会長として市役所高層館21階展望ロビーで待機することになった。メディアも一緒に待機するそうだ。そこで、吉報を待ちたい。

そして、推薦を得た場合は、この地域の大学全体（南大阪大学コンソーシアム）として、学生にも盛り上げてもらい、ユネスコ登録になることを願っている。まだ、先は長い。

7月31日市役所で万歳しました。詳しくは後日。



7月31日 プロテニス選手・沢松 奈生子さんと

公開講座「関西経済論」の最終回に、宮本先生と対談をしていただいた。「沢松」というと、私の世代では、沢松順子・和子姉妹が大活躍されていて思いで深い。日頃、昼間にテレビを見るのが少ないので、活躍されていることはよく知っていたが、その弁舌さわやかさは、はじめて知った。

話をしていて楽しい。なぜだろうか。つらつら考えるに、どんな話題でも付き合っ下さる。間のとりかたがすばらしい。話題の転換の仕方も自然だ。話をとぎらすことがない……。

こんなことを考えているうちに「プロ」って何だろうと気になりだした。職業（収入を得るツール）として能力をもっているだけではなくて、「プロ」というのは、その仕事で他人の思考に刺激を与える能力なのかもしれない。こんなことが頭をよぎった。おかしいだろうか。我々大学は（スポーツではないが）多くのプロを育てている。



## 8月1日 世界文化遺産国際推薦の結果を報告する会

昨日、速報で伝えた報告の会。堺市役所高層の21階であった。多くの市民の方も参加され、多くの関係者と（市民の会の副会長の一人として）一緒に喜んだ。まだ、登録まで早くて2年かかるのでこの先は大変だが、昨年は（推薦見送りという）残念な結果だっただけに 関係者は大喜びだった。くす玉を割るのに「はにわ課長」とともに参加したり、万歳をしたり、そのときの様子を数枚スライドショーにまとめた。

市民の会は現在会員数が2万人。これから8万人を目標とする。結構大変だが、他人事ではなく、堺市に住んでいなくても会員になれる。

## 8月2日 自戒を込めて会議に臨む心構え

会議をするなら、何を議論するか目的や問題を明確にしよう。そして、何を議論するかの目次（アジェンダ）を作ろう。終わったら、何がいくつ決まったかを明確にし、宿題が残ったら、誰がいつまでに何をするのかの合意を作ろう。参加者には発言を求め、よく聞く姿勢で。決まったことは（電子文書だろうが）メディアに残して共有する。

昔の上司が、「よし、では以上の議論で、三つ決めよう。一つ目は・・・、二つ目は・・・、そして・・・。あとはTODOリストにまとめて確認しよう」と会議をまとめていたのを今でもよく覚えている。



## 8月3日 チャレンジすること

昔聞いた話がある。暗闇の中に電信柱があって、一部だけが照らされている。照らされているところは何かがあるかがよくわかり、暗闇は全く分からない。

そこで、ある人が指輪を落とした。大切な指輪だ。慌てて探し出す。その指輪は確かに暗闇に入り込んでしまっていて、照らされているところにはないことは確かだった。

それなのにその人は、照らされているところだけを探している。聞いてみると、「見えないところを探すのは大変だから、見えるところを探しています」というのが返事だったそうだ。暗闇を探すのは大変だが、宝物は暗闇にある。



## 8月4日 コロラド州立大学の獣医学関係者(7月27日)

学術交流協定を締結するために、米国から多くの先生が来校された。米国では特に国際通用性のあるカリキュラムを作って教育の質保証としているという。

どうも聞いていると海外の獣医学教育は教育に特化しているように感じる。本学の場合は、教育だけでなく、研究もしなけ



ればならないし、臨床だけでなくいろいろな地域への貢献もしなければならぬ。この数か月、日本の獣医学教育について世間の関心を集めているが、世界のことをいろいろ知らなければならぬと改めて思う。



### 8月5日 東北大学金属材料研究所の産学官広域連携センター

なかまキャンパスの中に 東北大学の分室があることを どれだけの人が 知っているだろうか。11年前から C10 棟にあって、「大阪センター」として、ものづくり企業支援を通して 同大学のシーズ移転を 目指してきた。6年前から兵庫県立大の中にもオフィスをもち、支援対象を関西圏に拡充し、名称を「関西センター」とした。

今年からは、「広域連携センター」と名称を換え、そもそもの 地元の宮城を対象に 施設の共同利用を含めた社会貢献を目指すという。そのキックオフフォーラムが 4日（金）仙台であり、招待され、祝辞を述べるとともに 本学の取り組みを紹介する機会をもらった。

いろいろな方の 話を聞いていて、いい事例は出て対象は広がっているが、日本の産学官連携は まだまだマネジメント面で成熟していないなあと感じた。組織の成熟度1から成熟度5くらいを定義して、連携のプロセスを確立するのがいいのではないだろうか。



### 8月6日 ハイスクール放射線サマークラス

放射線の正しい知識を普及するために「みんなのくらしと放射線展」（本学が事務局）というのがあり、今年で第34回目。関係する教職員はもちろん、展示などには、工学、理学の学生だけでなく、驚いたことに看護と現シスの学生や高専生もサポートしていた。看護の学生は初年次ゼミ参加を契機に参加したそうだ。



放射線探検ラリーはじめ、測定体験ツアー、ガイドツアー、親子セミナーというイベントがあるが、本学の教員が特に力をいれて指導しているのが、ハイスクール放射線サマークラスで、今年が6回目、6校の参加があった。常連校もあれば、新規参加校もあった。今年も最初から最後まで発表と質疑討論を聞いた。



発表は、グループ研究の報告だ。発表後は、聞いている他校が厳しい質問をする。お互い、いい経験になってくれることだろう。



## 8月7日 UCB 共同シンポジウム

4月にUCBを訪問して(写真3)、招へいたモディンゴ教授を中心としたシンポジウムを開催した。3日のことだ。

ランドスケープデザインがご専門ということで直訳すれば「景観」であるが、そこには、人と自然の調和の話であったように思う。大切なのは、

- (1) 保全: いまある(壊れかねない)大切なものを守る
- (2) 改修: (すでに)劣化しているものを(早めに)修理する
- (3) 強化: よいものをよりよくする
- (4) 効率を生み出す: 逆に言うとムダを作らない

ということで感銘を受ける講演だった(写真1)。そして、これらは **Everything has to be an AND cross discipline** ということ で分野を横断してアイデアを出すべきだ という提言だった。地に足のついた活動、地域の人々が中心となった活動が必要であり、将来にとって健全な場所を作れば、自然に人は集まってくるという。講演の後はパネル討論(写真2)。

これを機会に本学とUCBとの交流が深まることを心から望む。

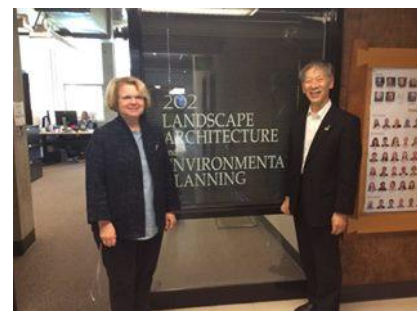
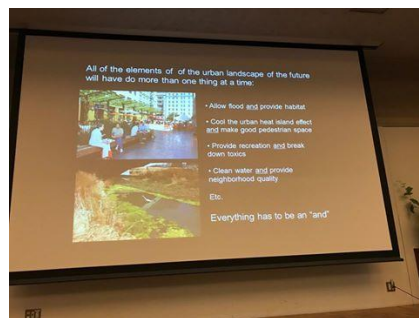
## 8月8日 この一週間に誰と会って何を学んだかを言えるか?

本日、雑談の中からの話だ。常に学び続けるという一つの思考方法というか、自己チェックと考えてもいいと思う。「この一週間に誰と話したのか思い出してみよう。そのときの会話から、何を学んだか考えてみよう」。この「一週間」を「一年」あるいは「一日」に置き換えていいかもしれないし「今の職場(あるいは学びの場)に来てから」と置き換えてもいいだろう。府大に来てから、あるいは〇〇研究室とか〇〇ゼミに参加してからと置き換えてもいいだろう。

ここでも何度か書いたか、**Influencer** と **Influencee** というのを「継続的に」考えるようにしませんか? 自分は誰の影響を受けて、誰に影響を与えるのか。自分の夢を考える(語る)だけでなく、誰と会って何を学んだかも考えるようにしてほしい。多様・融合という視点を大切にするためにも。

## 8月9日 さくらサイエンスプランで王立ブノンペン大学

今年も来てくれた。2010年7月に初めてカンボジアを訪問したときに「いずれ若い人を呼ぶようにするから」という約束をして、これで何回目になるだろうか。今の立場になり、もう自分自身でお世話できないが、元同僚の先生方が引き継いでくれている。短い時間だが引率して学長室に来てくれた。このことを誇りに思う。







学内での交流はもちろん、グランフロントに行ったり、科学技術館を見学したりした後、USJを楽しむそうだ。台風もニアミスであったが経験した。受け入れた府大生も(多少無理をしても)時間をとってぜひ、プノンペンを訪問してほしい。そして、国際交流というか、グローバルに活躍する希望をもつ学生の存在を肌で感じてほしい。

彼らは、日本の食事はすべて気に入っているようだ。今年は日本語のできる学生もいた。今回、2010年に会ったときに「学生」だった一人が「講師」として来てくれていた。当時の写真を見ると確かに学生の彼女はいた。当時、「いずれ大阪に行きたい」とおもってくれていただろう。7年前の写真だったが分かる。

#### 8月10日 データサイエンス関係のカリキュラムの新設(1/2)

2018年度の学生募集でデータサイエンス関連のカリキュラムを強化する。その一つが経済データサイエンス課程の新設だ。

これまでマネジメント学類として一つの課程(カリキュラム)だったが、この中に「経済データサイエンス課程」と「マネジメント課程」を新設する。募集は学類として一括募集(定員を130人から150人に増加)し、両者の共通授業を履修した後、学生の希望で、どちらの課程を学ぶかを選択する。

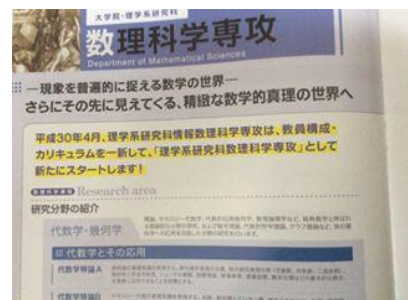
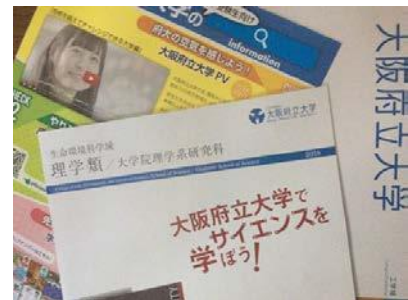


新たな「経済データサイエンス課程」では、AI技術の発展やビッグデータの普及、グローバル化の進展に伴って高度化・複雑化する社会環境の中で、社会経済のメカニズムを理論的に捉え、理論的な分析能力とデータ分析能力を兼ね備えた人材の養成を目指す。推薦入試では、英語重点型と数学重点型を新設し、推薦枠を37名から57名に増やす。

#### 8月11日 データサイエンス関係のカリキュラムの新設(2/2)

2018年度の学生募集でデータサイエンス関連のカリキュラムを強化する。その一つが理学類(従来の自然科学類)の数理科学課程だ。

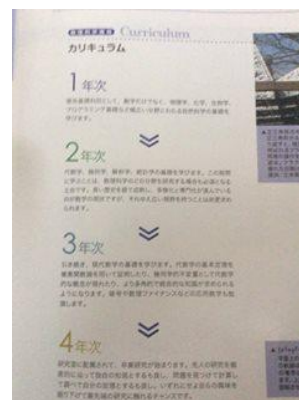
高校生までに学ぶ数学は微分積分の計算や方程式の解法だ。実はこれらは、生産効率をよくしたり、製品の品質管理、雪の結晶、自然界の生物の増減、選挙の出口調査、金融商品の設計など多くの分野を支えている。はじめは無関係に思えることが、よくよく問題の構造を考えているみると、本質は基礎数学と関係する(数学を知らなければ問題を解けない)ことがよくある(私の講義や講演ではこれを紹介している)。今注目をあびているのは、AI(人工知能)とビッグデータ。そして情報セキュリティ。すべて数学の知識が必要だ。



新たに はじめる「数理科学課程」で学ぶには、「理学類」を受験して、物理、化学、生物、数理

のいずれかの課程(カリキュラム)を選択するときに、「数理科学課程」を選ぶという手順にしている。これらは、少しでも幅広く学ぶという習慣をつけてほしいからだ。「富士山はなぜ高いのか」「それは裾野が広いからだ」という問答からわかるように、大学時代に少しでも裾野を広げてほしい。それはクラブ活動、旅行、就業体験なども含めての話だ。

なお、入試に関しては、理学類の定員を34人増やし(115人=>149人)、入試科目に関しては、従来、配点で理科均等型というのがあったがこれを廃止し、数学重点型(前期30名、後期5名)を新設したことだ。



## 8月12日 府大のアンテナ(4) 記者懇談会

年に二回、記者の方に集まっていただいて、懇談会を行っている。去る8日、I-site なんばで第5回を行った。

今回はミニ講演を5件、ポスター展示を3件。「ヒアリ」の話はタイミングがよく関心を引いたし、私たち自身も大変勉強になった。画像処理技術でアリの動きや巣を撮影し、「ヒアリかどうか」を判定するのは、府大の先生方が協力すればできるような気がしてしまう。そのほかの話も記者の方の興味を引いていただいたような気がする。ありがたいことだ。

学内外に対して、(学生の協力も得て)構成員みんなが参画して、できることを一歩広げるという姿勢で、情報発信(そして受信し共有)を続けることが大切だと思う。

### ★★研究紹介

- ① 迫りくるヒアリの脅威 上田 昇平 先生
- ② 地域保健学域が取り組むコラボレーション教育  
～人間を包括的に分析し協働しながら支援する力を備えた  
高度専門職養成をめざして～ 山中京子 先生
- ③ 魚庭(なにわ)の海の再生プロジェクト  
～大阪湾の漁場改善と次世代型漁業の創出～ 大塚 耕司 先生

### ④ LGBT から SOGI(Sexual Orientation and Gender Identity)へ

～性的指向・性自認の多様性に関する本学の取り組みについて～ 田間 泰子 先生

- ⑤ 女性活躍は当然の時代に!! 女性研究者リーダーの育成と研究力の向上 真嶋 由貴恵 先生

### ★★ポスター展示

- ・星はどのように生まれるのか? ～銀河形成と宇宙の歴史について～ 村岡 和幸 先生



- ・微生物を利用するレアメタル・貴金属のリサイクル 小西 康裕 先生
- ・タイからの留学生が地元企業に就職 ～留学生と地元企業のマッチング事業～

8月13日 情報圧縮と言葉遊び

このタイトルで以前に大阪女子大学の同窓会である斐文会に寄稿した。和歌や俳句や川柳も情報圧縮だが、製品やシステムの名称に特徴とか狙いを伝えるためにそのフル名称を考えるのも一種の言葉遊びだ。例えば、先日開設した FIND OUT というサイトは、Fudai Inside Discoveries OPU Useful Tool というようにした。

府大では、産業界をリードする（けん引する）博士人材を育成しようとして Leading Program などを行っているが、以前、LEADERSHIP について、それぞれの文字から「リーダーに必要な力とは」を聞いた。Listen, Explain, Assist, Discuss, Evaluate, Response, Sincerity, Health, Intelligence, Personality とあった。いろいろな場面で言葉遊びをするのは、自分の考えを整理したり、周りとの議論したりするうえでも役に立つ気がする。

8月14日 学長顕彰式典（8月9日）

年に一度、学術研究・社会貢献などの業績を認められ、諸学術団体から著名な賞を受賞された先生の功績をたたえ顕彰を行っている。今年は46名。

昨年同様、記念講演会も行い、5名の先生に研究紹介をしていただいた。昨年度の、大学改革・学位授与機構による認証評価で、「研究活動」「地域貢献活動」で「極めて良好」という最高の評価を得たのは、このような先生方の功績によるところが多いのだろう。

府大広報は地味と言われているので、こういう受賞についても自己PR・部局PRして、府大の広報にもご尽力いただきたい。



8月15日 府大のアンテナ（5） 校友会メルマガ

校友会は、在學生、卒業生、教職員等を会員とする全学同窓会組織だ。平成21年9月に発足したので、比較的新しく、古い卒業生には情報が届いていないかもしれない。一方、最近では、大半の学生さんが入学手続きの時に会員になっている。

在学中、特に入学時などは実感しにくいかもしれないが、社会に出ると同じ大学の卒業生同士や同窓生のつながりを大切にしてほしい、少しでも、個人のキャリア形成やビジネス上のつながりなどで活用できるようにいろいろな活動がなされている。

その中にメルマガ配信がある。これは Web サイト OPU-Net 翔からのメール配信の希望をだした方全員に送っている。今回、その例をしめすので、まだ登録しなければぜひ登録してほしい。登録していれば、ぜひ周りにも登録を進めてほしい。Greater OPU を構築するために。

◎OPU-Net 翔登録案内ページ <http://www.opucr.osakafu-u.ac.jp/tsunagaru/opu-net/>

〇〇 〇〇 様

2017年8月10日（木）配信

大阪府立大学 校友の皆さま、なみはやみです。

明日の金曜は祝日ということで、今週のメルマガは一日早くお届けします。

以前にお伝えしました JICA 関西国際センター次長の田和正裕さんを講師に迎え、第 44 回校友懇話会を開催します。申し込み方法などの詳細は以下の (1) をご覧下さい。

田和さんは、1990 年に府大 農学研究科を修了、国際協力事業団 (JICA : 現国際協力機構) に入団され、今年 4 月から現職に就かれています。また、神戸大学の客員教授も兼任されています。今回の講演タイトルは、「持続可能な開発目標 (SDGs) と JICA の取組み」です。ほとんどの方は「SDGs って何や?」と思われると思います。SDGs とは、2015 年 9 月の国連サミットで採択され、「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」にて記載された 2016 年から 2030 年までの国際目標で、Sustainable Development Goals の略、日本語で持続可能な開発目標のことです。

それでは、今週もさまざまな母校 (母港) の様子をお届けします。と言っても、お盆休みも近いということで件数は少なくなっています。

-----★トピックス-----

- (1) 第 44 回校友懇話会のご案内 ★大学の動き・学生の活動・卒業生の活躍・その他
- (2) 府大とカリフォルニア大学バークレー校による共同シンポジウムを開催しました
- (3) 大学フェイスブック 工学部卒の横山和典さん (食品トレー容器会社の株式会社エフピコ勤務) が、朝日新聞の企画コーナー「凄腕つとめにん」に掲載、その他

-----★トピックス-----

#### ■ (1) 第 44 回校友懇話会のご案内

校友会では、会員の研鑽と相互の親睦を深めていただくことを目的に、卒業生を講師に迎え校友懇話会を開催しています。第 44 回校友懇話会は、陵友会との共催として JICA の田和正裕氏をお迎えし下記のとおり開催しますので、奮ってご参加ください。

・講師：田和正裕氏 (JICA 関西国際センター次長 (兼) 神戸大学客員教授)

1990 年 府大 農学研究科修了、国際協力事業団 (JICA : 現国際協力機構) に入団。

・講演タイトル：持続可能な開発目標 (SDGs) と JICA の取組み

・日時：9 月 13 日 (水) 午後 6 時 30 分～8 時 30 分

・場所：ガーデンシティクラブ大阪

★大学の動き・学生の活動・卒業生の活躍・その他

#### ■ (2) 府大とカリフォルニア大学バークレー校による共同シンポジウムを開催しました

8 月 3 日、中百舌鳥キャンパス学術交流会館にて、大阪府立大学とカリフォルニア大学バークレー校 (UCB) の共同シンポジウム「大学のある街づくりーランドスケープから捉えたコミュニティ再生・活性化ー」を開催、約 200 名が参加されました。このシンポジウムは、堺市・バークレー市姉妹都市提携 50 周年記念事業の一つとして開催されたものです。

#### ■ (3) 今週のフェイスブックより

学長室から：中百舌鳥キャンパスの中に東北大の分室があることを、どれだけの人が知っているだろうか? <http://bit.ly/2fujmia>

学長室から：コロラド州立大学と獣医学関係で学術交流協定を締結 <http://bit.ly/2uqskU9>

理学系研究科の藤原准教授と市大の八ッ橋知幸教授などによる論文がドイツ Wiley・VCH 社が出版する物理化学専門誌 (ChemPhysChem) の Inside back cover を飾りました

- オープンキャンパス関係
- ・オープンキャンパススタート <http://bit.ly/2vGpWbR>
  - ・羽曳野キャンパス <http://bit.ly/2ft05xL>
  - ・教育福祉学類 <http://bit.ly/2vQCyxq>
  - ・理学療法学専攻 <http://bit.ly/2vPIqq5>

・工学部卒の横山和典さん（食品トレー容器会社の株式会社エフピコ勤務）が、朝日新聞の企画コーナー「凄腕つとめにん」に掲載 <http://bit.ly/2vR10z1>

・卒業生、そして芥川賞作家の柴崎友香さんが講演 <http://bit.ly/2wJT6DP>

・前期試験が終わった中百舌鳥キャンパス <http://bit.ly/2hM7FUY>

台風5号は和歌山県北部に上陸、近畿地方でも滋賀県姉川などに大きな被害をもたらしました。皆さま、被害はありませんでしょうか。台風銀座とも言われる土佐高知ですが、卒業生の木岡真理奈さんがこの4月よりテレビ高知でアナウンサーとして活躍されています。8/7のテレビ高知のニュース「台風5号高知県にかなり接近し通過」で、高知駅から台風の状況を伝えていますので、以下の同局サイトをご覧ください。 <http://bit.ly/2wGAxAr>

来週はお盆休みということで、勝手ながらメルマガも休ませて頂きます。今週も最後まで読んでいただき、ありがとうございました。卒業生・校友のみなさまに「府大の今」をお伝えする「校友会メルマガ」を今後もどうぞお楽しみに。ご意見ご感想もお待ちしております。

#### 8月16日 優秀法人職員（教員を含む）表彰（8月9日）

これまでも様々な取り組みの実行により、多大な効果を挙げられた法人内の個人や団体を、随時、表彰してきたが、今年度から、学長顕彰に併せて、式典を開催することとして、推薦者を募った。

結果、事務職員だけでなく教員も多数の推薦を頂き、人事委員会メンバーで審査した結果、個人表彰、団体表彰、併せて22名の方を表彰することにした。表彰内容としては、

- (1) 広報露出
- (2) 構内の飼い主がいない猫の適正管理による地域貢献
- (3) 指導学生の文部科学大臣表彰を受賞
- (4) 新たな海外留学プログラムの開発・実施
- (5) 外部資金獲得
- (6) 円滑なシステム・リプレース

で、幅広い内容を表彰できたと思う。

#### 8月17日 府大講座申し込み募集中

毎回2講義、5日間の府大講座を開講する。定員500名。今年は私も最終日に時間を頂くことになった。私の話のショ

ート・バージョンを、講義のほぼ一週間前の11月5日（日）の白鷺祭期間中にも、卒業生、保護者、地域の方などに話す予定だ。大学の過去を知り、今後を一緒に考えて頂ければと願っている。



/-----

10月16日(月)

- 第1講「極限環境下の科学」 野口 悟
- 第2講「口からの健康法」 小川 由紀子

10月23日(月)

- 第1講「目は口以上に物を言う」 黄瀬 浩一
- 第2講「強い金属をつくる」 金野 泰幸

10月30日(月)

- 第1講「家族と憲法」 水鳥 能伸(経済学研究科)
- 第2講「がん予防について考えよう」 田中 京子

11月6日(月)

- 第1講「宇宙で植物を育てる」 宮本 健助
- 第2講「希少野生動物とその保全」 平井 規央

11月13日(月)

- 第1講「米国作家と日本」 相田 洋明
- 第2講「府大の沿革、今、そしてこれから」 辻 洋



8月18日 「ボッチャ」一般審判員養成講習会 参加者募集

かなり急な話である。しかも夏休みの土曜・日曜という話だが、興味のある方にはぜひ参加を検討いただきたい。本学の教職員、学生だけでなく、一般の方も参加できる。

パラリンピック競技でもある「ボッチャ」の審判員の資格をとるというものだ。講習会費に加え、協会の登録料もかかる。しかし、選手のトレーニングを支援する研究を含め、いろいろな側面からこの競技を応援したい(盛り上げたい)ので企画してもらった。私も参加して資格をとろうと思う。詳細は次の通りだ。



----- ボッチャ一般審判員養成講習会 実施要項

1. 目的

ボッチャ普及振興のために必要な競技の概要や基本的なルールを学び、主に地域での競技大会や全国障害者スポーツ大会、ボッチャ甲子園における審判員としての知識や技術を修得する。

2. 主催 一般社団法人日本ボッチャ協会

3. 協力 大阪府立大学

4. 会場 大阪府立大学 羽曳野キャンパス L棟2階401・402教室

5. 参加資格 ボッチャの普及や審判員としての活動に興味があり、日本ボッチャ協会一般審判員としての資格取得を目指す者。

6. 参加定員 30名程度

7. 日時及び日程(予定) 8月26日(土) 13:30 ~ 17:00  
8月27日(日) 9:30 ~ 15:30

8. 講師 田野 敦子(日本ボッチャ協会 大会運営局 審判部長)ほか

9. 参加費 日本ボッチャ協会登録費 2,000円 (団体登録の一人当たりの登録費用)

講習会受講費

2,000円（※ただし学生は1,000円）

10.申し込み（問い合わせも） 大阪府立大学総合リハビリテーション学研究所 片岡正教 宛て

### 8月19日 中期目標

大学が法人化されてからは、設立団体（本学は大阪府）から中期目標を指示され、それに対応して計画を作って運営を行っている。中期目標は6年単位で、第一期が2005年度から2010年度、第二期が2011年度から2016年度。今年度は第三期の初年度にあたる。中期目標は、議会で審議されて決まるものだ。

中期目標の指示事項の一つが次だ。現在、府、市、府大、市大の四者でタスクフォースを作って、新・公立大学がどういうものかをまとめている。四者で意見があうことも多いし、対立することも多い。短期的にどうかとか長期的にどうかということでも進め方の合意をとることは容易ではない。

近く副首都推進会議というのがあり、そこで進捗を報告することになっていて、先日、学内で説明会を開催した。これまで以上に説明責任がある。在学生、受験生、同窓会、保護者の会、地域の方、……。これまでもいろいろな場でお話をしてきたが、このFBでも、私の考えを交え、少しずつ書いていこうと思う。大学での機関決定事項、四者の合意事項、私の考え、など混乱しないように注意して。

----（中期目標から抜粋）-----

#### 大阪市立大学との統合による新大学実現へ向けた取組の推進

世界的な大学間競争を勝ち抜き、より強い大阪を実現するための知的インフラ拠点として存在感を高めるため、「新・公立大学」大阪モデル（基本構想）を踏まえ、世界に展開する高度な研究型の公立大学を目指し、大阪府、大阪市及び公立大学法人大阪市立大学と緊密に連携を図りながら、法人統合から大学統合に至る準備が円滑に進むよう取り組み、今中期目標期間中を目途に新大学の実現を図る。

### 8月20日夏休みに奈良に

先日、唐招提寺と薬師寺に行った。小学生のころから数えて、これまでに何回か行っている。どちらも世界文化遺産。何百年も前の思想が形として残り、今後も保存されることが決まっている。

昭和、そして平成の時代の作品のいくつかも何百年後に遺産として残り保存されていくのだろうか。昔から人間の「知」はすごかったなあと思わざるを得ない。



### 8月21日 データで見る公立大学法人大阪府立大学

大学運営のデータについて、法人、大学、高専に分けて、毎年公開を行っている。今年度も先月まとめ、Webで公開している。例えば、予算規模は

大学 194.7億円（内、運営費交付金97億円）

高専 13.7億円（内、運営費交付金11.5億円）

とか、学生数は

大学 7710人 (内、大学院生、1877人)

高専 849人 (内、専攻科生、47人)

の詳細を示している。

このデータを用いて、いろいろな企画を行い、意思決定を行うことが大切だ。データの提供、収集、整理に努力してくれた関係者に感謝するとともに、活用をお願いする。私のところには、これ以外にもいろいろなデータが集まるようになってきた。

### 8月22日 府大のアンテナ(6) MICHITAKE

受験生・在学生向けに府大の魅力を学生視点で描いた広報誌がある。「満ちていく」と「未知をTakeする」を掛け合わせた造語だ。Vol. 1(2013年8月発行)以来、Vol. 7(2017年7月発行)まで発行されている。

あわせて、Webマガジンもある。「ミチテイク・プラス」だ。大阪府立大学広報課と学生広報誌「ミチテイク」編集チームの学生が共同で取材・執筆している。

府立大学とはどんなところだろう。それぞれが大学の説明をしきるのには難しいかもしれない。だからこそ、いろいろなアンテナを立てて、全員で広報をすることが大切だ。

### 8月23日 本日(23日)放送!見逃すことがないように

放送局の回し者になっただけではないが、番組の紹介。いつもは夕方に投稿するのを本日は昼休みに投稿(録画していない方は、ぜひ、録画の手配を)。

WindMill Club(堺・風車の会)が出場した「鳥人間コンテスト2017」が、本日 8/23(水) 19時より、読売テレビ・日本テレビ系 全国ネットで「大阪府立大学」の名前とともに放送される。先日、飛行中の写真を額に入れて報告に来てくれた。私もサインしてもらったTシャツで応対。関係者で盛り上がりましょう!

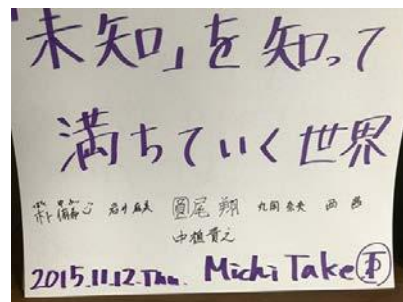


### 8月24日 陳訓養・台北駐大阪弁事処処長を訪問(8月7日)

9月に台湾政府から招かれて、一週間にわたり、多くの大学を訪問し、今後の交流について深める相談をすることにしている。これまでの台湾との交流が評価されたものと嬉しく思うとともにと

### 【目次】

法人		大学		高専	
1	沿革	1	理念	1	理念
2	組織	2	教育研究組織	2	教育学部
3	役員・教職員	3	募集制・学情情報	3	国語部
4	決算	4	大卒就職	4	文学・言語等との連携
5	府大・高専基金	5	教員等	5	教員等
6	施設	6	入試等	6	入試等
7	エコキャンパスへの取組み	7	理念	7	学生
8	評価	8	学生数(学部・学科) / 学生数(研究科)	8	留学生
		9	学生生活	9	学生生活
		10	学生支援	10	学生支援
		11	卒業・就職等	11	卒業・就職等
		12	研究開発	12	研究開発
		13	国際交流	13	国際交流
		14	地域連携	14	地域連携
		15	大学ランキング	15	大学ランキング





でも名誉なことだと喜び、感謝している。

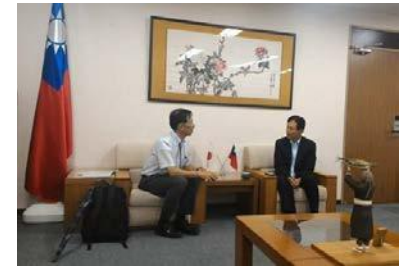
その気持ちを表すために大阪弁事処を訪問し、処長にご挨拶したところ、同処のHPにも掲載して頂いた。

-----  
辻 洋・大阪府立大学校長が 陳訓養・駐大阪弁事処処長を 訪問

8月7日に辻 洋・大阪府立大学校長が陳訓養・駐大阪弁事処処長を訪問、台日の 学術教育交流についての 意見交換を行った。

辻校長は 現在 淡江大学に 留学生を 派遣していることに触れ、8月にも 台湾師範大学の学生訪日団や 交通大学と教授1名の交換派遣を行うとした。また、昨年5月に台湾成功大学で行われた台日大学の校長が集まったフォーラムでは 特定のテーマで講演が行われた、台湾とは頻りに交流を行っている。

大阪府立大学は現在すでにわが国の中央大学、台南大学、台湾師範大学、台北科技大学、淡江大学、中興大学、台湾工業技術研究所、東華大学、台湾海洋大学及び交通大学の10大学と交流協定を結んでおり、辻校長も 過去に何度も 台湾は訪れている。陳処長は 大阪府立大学がよい大学交流の手本であると述べ、今後 継続して交流を行うことを期待した。



8月25日 承認要求って何だろう

昨日のある会合で、「人には承認要求を満たせる機会を提供すべきだ」という話を聞いた。「昇任」ではなく、「承認」だ。自分のこれまで用法だと、ある提案やある企画に対して「承認」という用語を使ったことはあったが、どういうことはすぐ理解できなかった。

「自分の存在を認められること」というような話のようだ。少し調べると、承認には、4つのレベルがあるとあった。コーチングやマネジメントでの方法（そして評価）とも関連するようだ。時間をみて、もう少し調べてみようと思う。

【レベル1 成果承認】「結果や成果が出た」ときに、その人を認めたり褒めたりすること。

【レベル2 行動承認】ある人が「思った行動を取れた」ときに、その人のことを認めたり褒めたりすること。

【レベル3 意識承認】ある人が何かをしようと「思ったということ」に対して、認めたり褒めたりすること。

【レベル4 存在承認】自分自身の「存在自体」を認めること。

8月26日 ボッチャ審判員講習会一日目

パラリンピック競技のボッチャの審判員の資格を取得するため、学生さんに交じって、講習を受けた。教員が3名、職員が4名参加した。座学と実習がある。二日間で取れるだろうか。明日は、同じ判定するにも「格好いい」やりかたを伝授してもらえそう。



8月27日 ボッチャ審判員講習会二日目@羽曳野キャンパス

二日目は、ルールの詳細と審判員の動作について 学んだ。ボールの距離を測る小道具は 百均などで揃えたものだそうだ。

最終的に 参加した 23 名全員（学生、教職員、地域の方など幅広い）が 日本ボッチャ協会の公認一般審判員証を 頂いた。私の番号は「3 2 1」。(スライドショーの一枚目は Referee Identity Card を持つ 総リハの 学生さんと)

試合には、初心者の方がボッチャを楽しむための親善試合とパラリンピック（そしてその予選）のようなガチの試合がある。審判員の動きも それらによって 変わる。今は 多くの人に ボッチャを知ってもらう時期だと 思う（だから私も資格を頂けたのだろう）。

大阪府立大学が その普及の後押しに 少しでも 貢献できれば、そして、それが学生、教職員 さらに 卒業生や地域の人を巻き込んで 行えるなら、こんなに 嬉しいことはない。

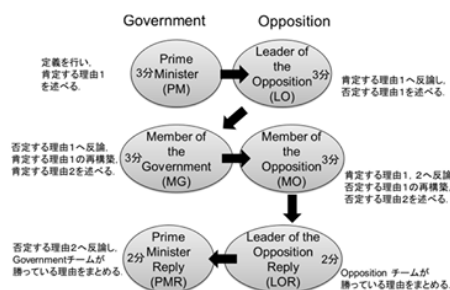


8月28日 即興型英語ディベート大会

機械工学の中川智皓先生は、学生時代から即興型英語ディベートに 興味をもたれ、研究と並行してこの活動で社会貢献されている。文科省からも支援を受け、プロジェクトを進めている。

週末、関西の公立高校 6 校が参加する大会が北野高校であり、それが Yahoo ニュースに掲載された。12 月には第 3 回の全国大会が開催されるという（第一回は府大であり、私が見学する中、私の母校も出場していた）

北野高校の校長先生のインタビューを聞いていると、このプロジェクトの潜在的な力のすごさが想像できる。府大としても誇りとした活動だ。



8月29日 正庁の間

立場上、大阪府庁に出かけることがある。大正15年に竣工し、モダニズム建築のさきがけとなるデザインの本館。

その中で、5階にある「正庁の間」は、年末年始の行事や人事発令・式典などに使われる特別な部屋だ。私は2年前にここで理事長・学長の任命を受けた。そして、本日で、ここで会長をつとめる大阪府原子炉問題審議会があった。この審議会は、昭和37年に設置され、なんと第123回だ。

審議会の目的は、「京大研究用原子炉の平和利用、放射線障害の防止、原子力損害にかかる紛争の解決の促進等住民の福祉についての重要事項の調査審議および調整に関する事務」だ。委員や議



事は公開されているので、ここでは省略する。

部屋の話に戻ると、国内最大級の大きさの天井ステンドグラス、壮麗な室内装飾、当時の部材のまま復元されたシャンデリアや寄木貼の床、大阪城が望める東窓などなかなかのもので、一般にも公開（週2日 水曜日・金曜日）されている。



#### 8月30日 副首都推進会議

昨日、大阪府庁で開催された（知事・市長が出席される）副首都推進会議に、大学統合の検討状況を報告するため、荒川大阪市大理事長兼学長と出席した。

内容は、公立大学としての新たな二つの機能の提言、府大・市大で行っている連携・共同事業の紹介、そして、法人統合にあたっての定款の基礎となる考え方だ。（順調に法人統合が進んで、その後、最速でも大学統合は2022年になる。）



大学の機能はもともと「教育」と「研究」だ。最先端の研究行い、その成果を教育カリキュラムに落とし込んで、人材育成をするのがミッションだ。加えて、社会貢献（地域社会・経済社会・国際社会等、広い意味での社会全体の発展への寄与）の重要性が強調されるようになり、近年では、国際協力、公開講座や産学官連携等を通じた、より直接的な貢献に取り組んでおり、こうした役割を、言わば大学の「第三の使命」として法律でも示されている。

しかし、今、（府大をはじめ）国内の大学が行っている地域貢献は、（いろいろな理由があり）まだ範囲が限られているので、「府市、両大学が協力することにより、二つの機能（広い意味では社会貢献であることは間違いない）を追加してはどうか」というのが、この一年間、府市と両大学で議論してきた結果だ。二つの機能というのが、（1）都市シンクタンク機能、（2）技術インキュベーション機能。簡単に言うと、

（1）都市シンクタンク機能は、行政と大学の距離を思い切り近くし、教員が行政のポジションをもって、行政データを分析し、施策提案したり、行政マンが教員のポジションで、地域課題を学生に教育したり、「多段階の連携を日常的な大学運営プロセスに入れ込む」ことだ。

（2）技術インキュベーションは、米国流の投資家主導、ビジネスモデル主導の産業創出（だけ）ではなく、「行政の政策と大学のシーズをもとに産学連携のプラットフォーム（ある意味、日本文化が大切に作る「場」）をつくり、そこをベースに大阪のエコシステムを構築する（製品や会社をつくるのではなく、産業を創出する）」ことにある。

（少し、噛み砕いてデフォルメ説明であるが、理解できるであろうか）

私は正しい方向だと思っているが、2つの機能のネーミングが考え（やりたい方向）を表しきれているか、行政がこの方向を（資金面を含め）支持してくれるのか、個人の論文成果やチームの研究資金獲得に追われている教員の意識を変えられるのか、（これまでもいろいろな難しいプロジェクトに参加し乗り越えてきたが今回も）なかなか前途は厳しいとも思っている。

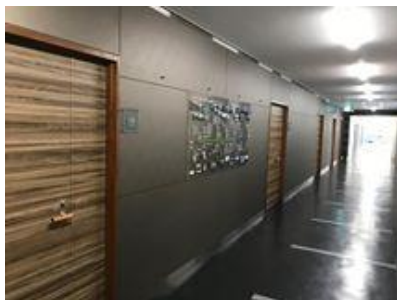


## 8月31日 府大の沿革を廊下にパネル展示

学術情報センターにヒストリアを設置し、そこに府大の沿革と貴重な資料を展示している。過去を知ることは、現在のポジショニングをすることができ、そして、将来を考えるうえで大切だと思う。

そこで、来客などに説明をしやすいように廊下に（少し洒落た）沿革のパネルを展示した。貴重な写真を添えて。どれだけの方にゆっくりみてもらえるかは別にして、歴史に学ぶ姿勢をメッセージ発信したいと思っている。

パネルの向かいには、昨年度受査して「極めて良好」と評価された認証評価の Certificate を展示している。これも奢ることなく、精進する必要性を発信しようとしたものだ。



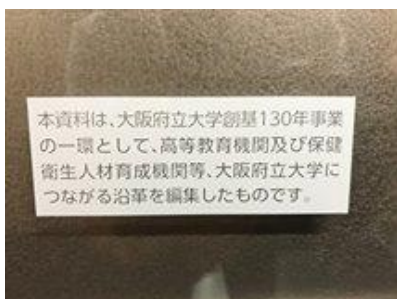
白鷺祭の期間中に、次のイベントを企画している。詳細が決まれば、また紹介するが、在学生・保護者、卒業生、教職員（OB含む）、地域の方など幅広い方の参加をえられればと願っている。

「府大を語る—現在・過去・未来—」

府大の今 三つの視点—多様・融合・国際—

府大のこれまで 大学の沿革／historia

府大のこれから 新法人化—市大との統合に向けて—



本資料は、大阪府立大学創基130年事業の一環として、高等教育機関及び保健衛生人材育成機関等、大阪府立大学につながる沿革を編集したものです。

## 9月1日 法人評価委員会

大学が法人化されてからは、経営状況を外部委員から評価される。そしてその評価結果は公表される。例年、3回の会議で評価されるが、今年は昨年度で第二期の中期計画が完了したこと、法人統合の定款（素案）が示されたことから、4回開催された。全体評価は、次の通りだ。

-----「全体として年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

○ 大項目について、5項目すべてがA評価（計画どおり進捗）であり、教育研究等の質の向上についても計画どおり進捗していることを確認した。

### ○ 委員会コメント

大学認証評価機関において「評価基準を満たしている」との評価を得、選択評価事項A（研究活動）及びB（地域貢献）においては「目的の達成状況が極めて良好である」との評価を得るなど非常に評価できる。今後も同様の評価を得るための継続的な努力を望む。

今までの大学の取組について、非常に努力しており評価できる。この取組や努力、成果を府内外や特に今後、大学を受験する学生や保護者に広くPRしてもらいたい。ちなみに委員は次の5名の方（敬称略）をお願いしている。

梅田 和子 近畿大学教職教育部特任教授（サービスの受け手を代表する者）

高嶋 克義 神戸大学経営研究科教授（大学の教育研究に関する識見を有する者）

平野 茂樹 大阪ガス株式会社参与（法人経営、人材育成、地域貢献に関する識見を有する者）

篠藤 敦子 公認会計士（法人の運営に識見を有する者）

山崎 栄一（委員長）関西大学社会安全学部教授（大学の教育研究に関する識見を有する者）

## 9月2日 職員全員が 海外の大学と交流する時代に備えて

今年の 年頭のあいさつで、府大のグローバル化像に関する問題提起を行い、その中で、次の話をした。

……。また、各事務組織は 留学生に対し、日本人に対するサービスとほぼ同質のものを提供できるようになる。少なくとも「海外案件だから国際交流の担当部署に任せてしまう」という 出島方式ではない。言葉は 流暢でなくても、指差しや ジェスチャを交えて お互いが努力して コミュニケーションを進める。10年後、20年後には どの職員も 程度の差はあれ、留学生をはじめとした外国人と交流することが 当たり前になる・・・

これまでも 職員を起業家研修（米国）、研究プロジェクト支援（ベトナム）、展示会支援（中国、台湾）、シンポジウム支援（台湾）などで 海外派遣してきた（報告会、出張報告書などで十分学内で共有できていないのではないかと心配）が、今回 はじめて、職員研修として 府大が協定を締結し、交流しているタイの大学等との交流機会を 設けることができた。

昨夜、研修の終盤になり、バンコクの学振を訪問したというニュースが飛び込んできたので、速報で 共有する。帰国後には 報告もしてもらい、全職員で共有し、彼らに続いてほしい。いろいろな形があるかもしれないが、職員の幹部はそれを意識してほしいし、国際交流を活発にしたい教員はこういう研修の支援をしてほしい。私の今年の初夢：職員全員が海外の大学と交流する大学になりますように！！世界に翔く 地域の信頼拠点を 目指して。



### 9月3日 ダラット大学とのシンポジウム

本学のベトナムからの留学生の数は、中国からに続いて多い。その中で、ダラット大学からも増えている。工学研究科の量子放射線専攻だ。

2014年には奥野先生が学長時代に訪問し（写真1）、（単なる訪問ではなく）当地で両大学のシンポジウムを企画した。そして、昨年は石井先生が訪問し（写真2）、開学40周年の記念式典に参列するとともに（こちらも単なる表敬に終わることなく、先の企画が定着するように）シンポジウムに参加した。

これまでも さくらサイエンスプランを利用して、同大学の若手教員、学生を招へいして 交流している（写真3）が、今年の交流（写真4）にあわせて、Hoa 学長にも来ていただき、シンポジウムを開催した。

国際交流を組織として深めるには、個人の交流を出発点として、それをグループとしての交流に拡げ、そして、国の支援プログラムを計画的に使って、持続的な交流になるように 教育プログラムに組み込んでいくのが望ましいと思う。このことは、学内の教職員に繰り返しおもしろいと思っっている。ダラット大学との交流がそのモデルケースになることを期待している。



### 9月4日 スポーツ庁長官 鈴木大地氏が講演！

かなり 先の話であるが、11月23日に なかもずキャンパスで 講演会を 企画した。大阪市立大学、関西大学とともに 三大学で 企画したものだ。祝日であるが、（簡単ではないだろうが）ぜひとも 500名の参加をえたい。ちなみに スマートエイジングとは「年齢を重ねるとともに起こる経年変化に 賢く対応し、個人・社会が 知的に 成熟すること」だ。本学の公開講座の リピーターの方は もちろん、教職員、学生、OB/OG そして、（ソウルオリンピックのバサロ泳法を見て感動した）すべてのご家族に 参加を 検討いただきたい。

----- 世界でも類を見ない超高齢社会、日本。大阪府では「スマートエイジング・シティ」をテーマに、新たなビジネスやサービスを創り出す基盤の整備、健康・医療・生活に関連した研究拠点や施設の集積などの戦略構想を掲げています。本講座では、超高齢社会における健康づくり、特に2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催で国家レベルの振興が図られているスポーツを通じたスマートエイジングについて提言します。

第14回 三大学連携事業  
スマートエイジングとスポーツ  
平成29年 11/23 本祝  
13:00～16:00  
会場 大阪府立大学 中野橋本キャンパス「Uホール白鷺」  
定員 500名  
受講料 500円 学生 無料（学生証）  
講師 大阪府スポーツ庁長官 鈴木大地氏  
主催：大阪市立大学、大阪府立大学、関西大学 後援（主催）：大阪市、大阪府

### 9月5日 公立大学の在り方（地域貢献）に関する検討会議

公立大学協会では、「将来構想に向けての議論の方向性と可能性」について議論されていて、その枠組みが「時代を LEAD する公立大学」として、5月に発表されている。

府大にアレンジして背景を理解してみると、「京阪神の国立大学や私立大学も地域貢献といっているが、公立大学としてどう展望するのか」「大阪府をはじめとする地元行政とどう連携するのか」「研究の位置づけをどう行政に説明するのか」「職員は何をすべきか」「学生にどう動機づけするか」「オープンに異分野連携のモデルをどうとらえるか」などの整理の枠組み（案）が示されたと思えばよい。

時代をLEADする公立大学の多様な機能

	機能	所属分野	機能内容
L	LINK 地域の価値をつなげる	地域政策系 農林系 社会科学系	地域内、地域間にある価値・知恵をつなぎ、地方創生、持続可能な社会をつくる
E	ENHANCE 地域の財産を発展させる	芸術系 人文系 理学系	地域が強みとする財産・価値を育て、発展させる
A	ASSURE 地域のいのちを守る	医歯薬系 看護医療系 福祉系、労働系	地域の命を守るための safety net を強くする
D	DEVELOP 地域の可能性を開発する	情報系 理工学系 国際系	これまで存在しなかった新たな価値を創造し、地域を開発する

まず縦軸に「地域からの要請」か、「大学からの提案」かという文類を行う。横軸に「持続性」に関する事項か、「創造性」に関する事項かの分類を行う。それを機能として書き下すと

Assure：地域のいのちを守る

LINK：地域の価値をつなげる

Enhance：地域の財産を発展させる

Develop：地域の可能性を開発する

となり、順番をうまく並べ替えると、

「LEAD」になる。この4つの類型について、

公立大学の地域貢献機能の分類(報告書 p.9 表 1-3)

	サステナブル	クリエイ
地域からの要請型	地域のいのちを守る (Assure)	地域の財産を発展させる (Enhance)
大学からの提案型	地域の価値をつなげる (Link)	地域の可能性を開発する (Develop)

て、教員の課題、学生が地域に定着するための課題、必要なコンピテンシーをまとめてみる事ができる。さらに類型ごとに自分の研究（あるいは組織）の特色、優位性、課題などを書けば、議論が進むように確かに感じる。滋賀県立大学では大学全体でも議論されているようだ。

教員も職員も学生もいろいろな組織の単位でこういう議論をしてみて、意見を聞かせてほしい。

9月6日 「4名」の先生が、(学振)により表彰

学術振興会の事業には多くの応募があり、特別研究員等審査会や国際事業委員では、2段階または3段階で審査されるが、第一段の書面審査は、すべての審査の基盤となるもので、その質を高めることが大切だと言われている。そのため、有意義な審査意見を付した専門委員が表彰される。

今回、昨年度に審査した結果、本学から4名の方（全国で158名）が表彰された（国公立大学は全部で200校近いので4名というのが多いと分かる！）。学振からは、「学長から直接渡すこと」「学内外に周知すること」が依頼されている。

表彰された次の先生方には、敬意を払うとともに感謝したい。  
工学研究科 小西啓治教授、生命環境科学研究科 堀野治彦教授、  
理学系研究科 佐藤孝哉教授、加藤希理子准教授



9月7日機械工学（設計・製造関係）の国際会議



人間社会システム学研究科の杉村教授と岩村教授がお世話されている国際会議があり、冒頭、大学紹介と歓迎の挨拶をする機会を得た。もともとマレーシアのMalacca工大が中心となって開催していたものを一昨年 徳島大学で開催し、今回、日本で2回目ということだ。

I-site なんばは 先輩方のご寄付をもとに オープンし、校友

会の方に 広く開放しているが、研究に関する会議は もう何百回目になるだろう・・・。国際会議も 私が知る限りでも 両手（たぶん両足を加えても）の指の数では 足らなくなった。どんどんこの場を活用して、知を Integrate し、人々を Inspire し、新しいことを Initiate してほしい。府大教職員、卒業生、在学生でまだ行ったことがない人、活用したことがない人がいれば、ぜひ、活用してほしい。これが、I-site を設立した関係者の強い願いだ。

### 9月8日 看護学研究科の先生方が会長をする学術集会

大学教員にとって学会活動は大切なものだ。発表するだけでなく、発表する場をお世話することも大切だ。一方、お世話する立場になるにはそれなりの道のりがいるし、いざ、お世話するとなると気遣いを含めてかなりの労力がある。

今回は、看護学の先生方の大阪での企画を三件、紹介したい（私が手元で知っているものだけで他にもあるかもしれない）。

杉本先生が「データでみる健康と運動、そして看護」という副題の日本健康運動看護学会をアレンジされている。上野先生は「公衆衛生看護の原点から未来につなぐ」ということで、健康格差解消に向けた集会をアレンジされている。簗持先生は、「変わりゆく社会に求められる循環器看護」という一年先であるが、集会を準備されている。

本学の看護の学生は、誇りに思ってもらいたい。それとともに国家資格試験についてしっかり準備を行い、(昨年度は残念な結果だったが) 全員が合格するという目標で取り組んでほしい。

第8回日本健康運動看護学会学術集会  
データでみる健康と運動、そして看護  
2017年10月21日(土)  
大阪府立大学 I-siteなんば  
大阪府立大学健康科学研究科 社会医学講座公衆衛生学分野 助教  
http://www.i-site.or.jp/~i-site/academic/2017/08/21/01.html  
大会長 杉本 喜恵  
大阪府立大学看護学研究科 教授  
登録費  
5月1日(月)~9月31日(木)  
前払 1000円  
当日参加 後払 3000円  
学生(大学生以上) 後払 4000円  
学友(大学生以下) 無料  
開催中  
9月15日(月)~9月12日(月)  
http://www.i-site.or.jp/~i-site/academic/2017/08/21/01.html  
プログラム  
10:00~ 大会長挨拶  
10:30~ 特別講演「座位行動と健康」講師 嶋川 重和  
北摂医科大学健康科学研究科 社会医学講座公衆衛生学分野 助教  
11:30~ 総会  
13:20~ シンポジウム「健康づくりとスポーツをどう捉えるか」  
運動健康に着目したパフォーマンス向上のための介入プログラム  
柳川 雅也、大阪府立大学看護学教授 教授  
運動健康に着目したパフォーマンス向上のための介入プログラム  
柳川 雅也、大阪府立大学看護学教授 教授  
スポーツ環境におけるパフォーマンス向上のための介入プログラム  
柳川 雅也、大阪府立大学看護学教授 教授  
健康づくりリーダー養成の取り組み  
柳川 雅也、大阪府立大学看護学教授 教授  
15:00~16:00 一般演題発表  
お問い合わせ先  
第8回日本健康運動看護学会学術集会事務局  
大阪府立大学大学院看護学研究所 11号 中央棟5階  
E-mail: jshn@i-site.or.jp  
TEL: 072-950-3111(代表) 内線2548

### 9月9日 台湾訪問

以前にも2, 3度書いたが、17日から一週間台湾を訪問する。台湾教育省に招待してもらったもので、期間中ずっとコーディネータが随行してくれるそうだ。

既にある個々の交流をグループの交流にするには、さらにグループで交流できているところではグループを超えた交流にするには、などを議論してこようと思う。そのために文科省のプログラムや学生支援機構のプログラムをうまく使うよう訴え続けたい。

府大出身の教授がおられる東華大学、淡江大学、府大の名誉教授が客員（講座教授）で滞在されている交通大学（ここには私の教え子もいる）、10年以上交流している台南大学（多くの学生を長期派遣し、また受入れた実績あり）、シンポジウムを共催している台湾師範大、台北科技大をかなり詰めた日程でまわる。いずれも先方の学長と面会ができるようだ。また、以前、共同研究をした台湾日立も訪問して旧知を温める予定だ。これ以外に台湾大学にもお伺いする。ここの交流実績情報が集まってこない。何か学内で交流実績があれば出発の17日までに一報が欲しい。

交流協定の有無はわかるが、600名を超える教員がどこの誰とどのような国際交流をしてきており、今後どうしたいかの把握がまだまだできていない。50から100の交流があるのではないかと推測している。これを何とかしたい（可視化と共有）と思うこの頃だ。

### 9月10日 体系化

たとえば、本学の公開講座は、すでに年に100以上のものを開講している。ばらばらにしているのはわかりにくいので、体系化するというのが最近のひとつの課題だ。専門的なものか教養的なもの



か、高齢者向けか就学者向けかなどの軸で考えることもできようし、初心者から習熟者へという軸も考えるだろう。

同様に教職員研修も教育研究はもちろん、人事関係、財務関係などいろいろなテーマのものを行ってきている。これを体系化しようと言っている。研修を提供することは、大学法人として法律で義務化されていることだ。業務遂行で必須のもの、管理職になるために必要なものなど区分することだろうか。

体系化って何だろう？体系的なものってどんなものだろう。少し調べると、日本語では近い表記なのに、英語では、動詞の場合、**Organize** を使い、形容詞の場合、**Systematic** を使うようだ。

## 9月11日 自転車マナー

自転車が好きな人は多い。通勤や通学だけでなく、琵琶湖や淡路島を一周したとか、峠越えをしたとかいう話をよく聞く。自動車に積んでいる方もおられる。

一方で事故も多い。そのため、本学に通勤・通学で使う場合は保険に入ることが必須だ。事故の多くは、「二人乗り」とか「ながらスマホ」に起因することが多いようだ。周りの迷惑にならぬようにしてほしい。

駐輪の問題もよく聞く。駐輪場の整備が進んでいるにも関わらず、禁止されている場所に駐輪されていたり、乱雑に置かれていたりしていることも多いようだ。

問題は、学内だけで終わらないことだ。駅周辺のマンションの駐輪場に違法駐輪したり、西高野街道で小学生や高齢者に「ヒヤリハット」したり、・・・根気よく、意識改革に努めていくしかないのだろうか。この問題は、他の大学だけでなく、全国いろいろなところで問題になっているようだ。



## 9月12日 看護学系の同窓会（白鳥会）9日

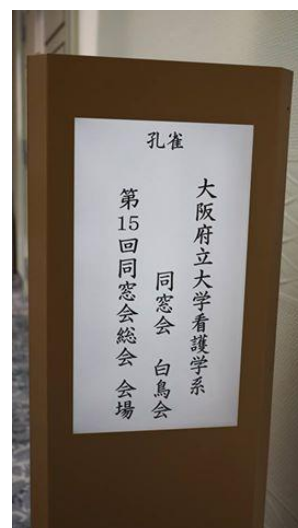
来年、同窓会ができて20年になるという白鳥会。招かれて総会に出席し、府大の近況（昨年度の認証評価で、「研究活動」「地域貢献活動」の両方で「極めて良好」という評価を受けたことなど）をお話した。

残念ながら所用があり、記念講演会（北村教授「看護の魅力とプロフェッションフットに基づくキャリア形成」）や懇親会は失礼した（そのため、下に2年前の投稿を掲載する）が、今年もお子様連れが多かった。

今回、お祝いとして、生演奏のデリバリを行った。起業した安達君を応援する意図も込めて。アンパンマン・マーチなどお子様を釘付けにするほど、好評だったそうだ。

-----（2年前の投稿）

看護学系の同窓会（白鳥会）に招かれた。この数か月いろいろな同窓会に招かれたが、他の同窓会と雰囲気がいびつだった。



(1) 若いOBが多く、直接の恩師と再会している場面が多く見受けられた。先生の話し方を真似たりするOBがいて、とても楽しかった。

(2) 臨床にでているOBから、大学院への進学に関心を多く聞いた。生涯学び続けようとしている。嬉しい話だ。仕事をしながら学位を取るのは大変だけど、できるときにぜひ取ってほしい。

(3) 小さなお子様連れの参加が多かった。総会の間は現役の学生が別の部屋で面倒を見ていたらしい。うん、とてもいい感じ。



#### 9月13日 フランス語学研修の学生からのブログ報告

フランス語の教鞭をとっておられるパンジェ先生からメールを頂いた。今年もフランスに語学研修に8人かの学生が旅立ったということだ。

語学研修を通して、参加者の責任感、自律性を強めるために学生には個人個人にブログを開かせる方法をとったということだ。行く前に考えていたことや感じたこと、そして、実際に滞在したときにどうだったか、帰国してどうだったかを表出化し、ときをおいて内省する。こういうポートフォリオを以前、フランスから来た学生さんが課題として取り組んでいたことを思い出す。

#### 9月14日 府の審議会での活躍情報

「大阪府各種行政手数料のコンビニ収納事業」に係る企画提案公募というのがあり、結果が出たという報道があった。その審議会の委員長は、人間社会システム科学研究科教授の宮本貴朗先生。世界に翔く地域の信頼拠点として、府大の先生がどのような分野で大阪府に貢献しているかも少しずつ紹介していこうと思う。

#### 9月15日 府の審議会での活躍情報

「大阪府泉佐野丘陵緑地運営審議会」というのがあり、丘陵緑地における都市公園の整備及びその運営方針について審議されている。委員会には本学緑地環境科学関係者が3名委員としてはいり活躍されている。加我宏之教授、前中久行元教授、増田昇特認教授

世界に翔く地域の信頼拠点として、府大の先生がいろいろな分野で大阪府に貢献しているかを共有していきたい。

#### 9月16日 公立大学協会 近畿地区協議会に出席 (15日)

年に一度、近畿地区の公立大学の学長、事務局長などが集まって、文科省の方や工大協の方から最新の動向を教えて頂くとともに、それぞれの大学が抱えている課題を共有し、うまく対応した例を学んだりしている。



今年と来年は滋賀県立大学が幹事校として場所を提供。彦根まで出かけた。高大接続改革と言われる入試制度の変更への準備、ブランド戦略、寮や奨学金など留学生受け入れのための制度について意見交換を行った。

私は、学生の自転車マナーが気になっているいろいろ聞いた。特に最寄り駅付近での駐輪マナーと子供の通学路での安全運転について。来年はこのようなことを聞かなくてもよくなればいいな！きっとそうなるだろう。そう思いたい。



#### 9月17日 「地域連携 学生フォーラム in 大阪 2017」

10月1日、大阪国際交流センターにて、大学コンソーシアム大阪に所属する11大学の学生が、地域の課題解決に関する研究活動（ゼミ活動等）を報告する。本学からは、「地域活動演習」防災グループの2名の学生が参加し、「堺市南区御池台小学校区の防災活動」について発表する。

大学としては、こういう場を提供すること、学生としては、こういう場を積極的に使うこと。が大切だ。以前、「教えた人と学びたい人がいるのが学校」という言葉を聞いたが、「場で自分の学んだことを伝えたい人と、場で他人が伝えたいことから学びたい人がいる」のがこういうフォーラムだろう。



#### 9月18日 在外研に出発する日根野谷淳准教授と懇談

米国テネシー大学のノックスビル校に一年間の予定で在外研究する獣医学専攻の日根野谷先生とお話した。大学から車で20分ほどのところにアパートも見つけ、到着後には、車の免許をとることが生活の第一歩ということだ。

府からの運営費交付金が減り続け、常勤教員数を削減せざるをえない状況が続いているため、各部局とも若い人を長期に海外に出すことを難しいと考えがちだ。だが、そこを何とか工夫して多くの方に出かけてほしいと思っている。

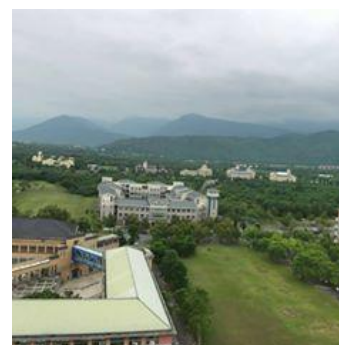
いくらネットが発達して、海外の情報が簡単に入ることになったとか、格安運賃のフライトが増えて海外出張が容易になったとかいっても、実際に住むのと通過するのでは大違いだ。科研費にも国際共同研究を加速するために滞在を支援するプログラムがある。財団にも助成金がある。

いろいろ探して、若い教員にはぜひ海外に滞在して研究してほしいし、行った人はきちんと報告して次に続くようにどんなことでもいいのでサポートしてほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



#### 9月19日 国立東華大学の自転車管理

台湾で一番広いキャンパスを持つというこの大学。自転車は不可欠だ。どうやっているのか聞くと、Obikeというシステムを取り入れ



たとのこと。学生は自分の自転車を持たず、スマホアプリでチャージしたものでレンタルするようだ。

このまま府大、その周辺で使うのは課題がありそうだが、起業を目指す学生さんのテーマにならないだろうか。国内のいろいろなところで自転車マナーが問題になっている。



### 9月20日 花蓮の国立東華大學

台北から在来線の特急で三時間弱のところにある。学生数は少子化の影響で減り続け、近くの師範学校を統合して一万人。その10%近くが留学生になっているという。

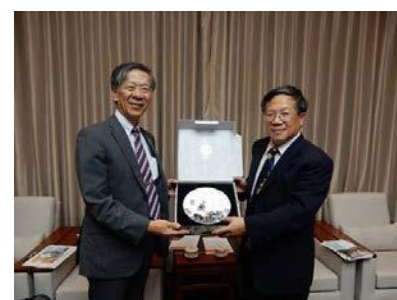
田舎にあり物価が安いこと、寮が充実していること、英語の授業があることなどで留学生は増加傾向らしい。しかし、東海岸なので産業が少なく卒業後の定着は悪く苦勞されているようだ。

キャンパスは台湾で一番広いというだけあって府大の7倍ある。



創立23年の歴史というが、結構、施設から見るともっと古そうに感じた。

日本の三つの大学とは交流されている。まずはさくらサイエンスプランで若い教職員や学生を招聘できないか議論していこうと思う。



### 9月21日 国立台湾大學を訪問

今回、七つの大学を訪問するが、その中で唯一協定を締結していないところだ。先生個人の連携に関する情報を集めて来たがなかなか把握できていない。

トップ校で敷居が高いのではな

いかと心配したが歓迎してもらいいろいろな可能性を議論できた。翌日に先方からその全てについて議事メモが来たのは驚くとともに嬉しかった。何かできそうな予感がする。

留学している日本人学生は同大学の国際大使という肩書きを



もらって日本からの来訪者に対応しているという。高校時代から中国語を勉強して合格したそうだ。国交のない国との平和について政治学を研究しているらしい。

ビルの屋上の植物工場を見学した。府大の設備のこともよくご存知で羨ましがられた。屋根に見える大学ロゴの中の鐘が2枚目の写真の鐘。毎時時を知らせるだけでなく学生に勉学を奨励しているという。



#### 9月22日 柳名誉教授が滞在される新竹の交通大学(20日)

理学系研究科が交流協定を締結した理工系の大学だ。7月には、電子物理の先生や学生が参加して、サマークラスにも府大から参加している。また、同大学から夏休みを利用した交換留学生を受け入れている。

サイエンスパークにあり、産学連携に熱心で、驚いたことにインドから毎年300人の留学生を受け入れているという。奨学金は地元の企業がサポートしているらしい。もちろん卒業後は、そのサイエンスパークが受け皿になっている。柳先生に聞くとキャンパス生活は購買含め英語が通じるので苦労しないとのこと。

近く府大とはダブルデグリーの指導を始める。こちらが交流したいという熱意は十分伝わったと思う。



#### 9月23日 府の審議会での活躍情報

府の「環境・みどり活動促進部会」では、環境保全及び緑化に係る府民等の活動の促進施策並びに大阪府環境保全基金及び大阪府みどりの基金の運営及び活用事業等に関する事項について調査審議を行っている。委員長が増田先生でほかにお二人の先生も委員で入っておられる。

遠藤崇浩 准教授（環境社会システム）、平井 規央 准教授（自然環境）

#### 9月24日 臺南大學訪問（20日）

この大学とは、研究室をもっていたときから深く交流していて、交換留学生の派遣・受入れを行ってきた。私が研究室を持てなくなってからも、佐賀准教授が学生の派遣・受け入れを続けてくれている。今回の訪問でも、以前に府大に来た同行OB/OGがすでに就職しているのに前日会いに来てくれた。とても嬉しく思う。

そして、学長も国際担当部長も昨年府大に来てくれていて、一年ぶりだったが、とても喜んでもらった。さらに、来年から府大に半年間きたいという学生が、同大学の説明を日本語で行ってくれた。日本語検定一級に合格したという。

一人は材料系、もう一人は経営系でどちらも学士課程の学生。これまではIT系の大学院生の受け入れだったので、ある意味、新しいチャレンジになる。

#### 9月25日 台南の World Vegetable Center 訪問

教育部（日本の文科省）から、ぜひ世界野菜中心を見学するように推薦され訪問した。世界中の野菜の遺伝子を保管している研究施設だ。保管室は零下 20 度に保たれ、100 年保存できるそうだ。種を保存するということが大変な作業だし、学术论文にはなりにくい。そういう中でコツコツ研究している集団があることに驚いた。欧米はもちろん日本（国際農林水産業研究センター理事長岩永氏は府大 OB で同センターの副理事長）も協力している。また、学生のインターンシップも受け入れている。生命環境科学域で興味をもつ学生さんはいないだろうか。



9月26日 教育福祉学類 山野則子先生のご活躍

門真市門真はすはな中学校 体育館で 9月29日(金曜日)午後6時～次のキックオフがある。350人が参加できる。



門真市では、子どもの未来応援チームを設置し、困っている子どもや保護者に寄り添って支援する「子どもの未来応援ネットワーク事業」を大阪府のモデル事業として、平成 29(2017)年 10 月から開始します。

事業の立ち上げにあたり、事業にもご参加いただく門真市出身の大阪府立大学山野教授にご講演いただきます。

門真市長の主催者挨拶に加え、大阪府松井一郎知事にもご挨拶いただく予定のほか、市のイメージキャラクター「ガラスケ」もかけつけます。皆さんお誘いあわせの上、ぜひご参加ください。

9月27日 府の審議会での活躍情報

社会福祉審議会の中に「行政の福祉化推進検討専門部会」というのがあり、教育福祉学類の小野 達也教授が部会長をされている。



9月28日 教育プロという受験者向け雑誌からインタビュー

長かった夏季休暇もおわり、後期が始まりました。キャンパスもにぎやかになりました。本日は、先日受けたインタビューの紹介。許可を得て、PDF を大学 Web に掲載しています。

- (1) 在学生保護者に対するオープンキャンパスの成果
- (2) 来年度「理学類」の新設、「マネジメント学類」にふたつの過程を新設など新しい学士課程について

(3) 授業体験 WEEK という高校生が大学生と一緒に授業を受ける企画、(4) スマホサイト、(5) 企業の人事担当者

から見た大学のイメージ調査、(6) 初年次ゼミナール、副専攻など学生を育てる仕組みなどについて、話を聞いていただきました。私の略歴には、日本ボッチャ協会公認一般審判員も記載しています！



## 9月29日 学位記授与式(25日)

18名の方に博士、6名の方に修士の学位記をお渡ししました(一名欠席)。秋の修了者は、社会人や留学生の方が多く、社会人の方は論文作成に当初の予定以上に時間がかかったり、留学生の方は言葉でご苦労された方が多いと思います。

式辞では、「論文作成が順調であれば、そのことが落とし穴になりかねない。逆に苦労されたなら、そのことが逆に幸運になるだろう」という逆説的なお話と、「周囲に共鳴・共振するような発表には、humanを語源とするhumorがいる」というお話をしました。

大阪府立大学の学位記というライセンスをもって、これからも研究(Re-Search)を続けて頂きたいと思います。 皆さん、おめでとうございます。



## 9月30日 府の審議会などでの活躍情報

府大の先生は行政にもいろいろな貢献をされています。すべてを紹介することはなかなかできませんが、可能な限りお知らせしていこうと思います。世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。

### (1) 大阪府りんくうタウン活性化事業者選定委員会

公園予定地を活用したりりんくうタウンのさらなるにぎわい活性化を図るため、「魅力ある集客施設」と「みどり豊かな公園」の整備及び運営を一体的に行う民間事業者の選定に関する業務

生命環境科学研究科 山田 宏之教授

### (2) 大規模小売店舗立地審議会

大規模小売店舗(店舗面積が千平方メートル超)の新設または変更の届出に関して、その店舗の周辺地域の生活環境(交通、騒音、廃棄物など)を保持する見地から、大阪府が述べる意見及び勧告等について調査審議を行う業務

人間社会システム科学研究科 興津 健二教授

### (3) 大阪府立稲スポーツセンター指定管理者評価委員会

委員会の組織、委員の報酬及び費用弁償の額その他委員会に関し必要な事項を定める業務

人間社会システム科学研究科 吉武 信二教授

### (4) 障がい者施策推進協議会

障がい者に関する施策の総合的かつ計画的な推進についての必要な事項の調査審議及び障がい者に関する施策の推進についての関係行政機関相互の連絡調整を要する事項の調査審議に関する事務

人間社会システム科学研究科 関川 芳孝教授

## 10月1日 府大のアンテナ：YouTube OPU channel

「府大・高専 全員広報宣言」で、多くの方に府大（法人・大学・高専）の情報アンテナになってほしいと思います。そのアンテナから集まった情報を、広報課中心の大きなアンテナから発信したいというのが願いです。

アンテナってどんな機能を持つのだろう。そのアナロジーで何をすべきで何ができるのだろう。そんなことを皆で考えていきませんか。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



## 10月2日 秋季入学式（28日）

工学研究科の博士前期課程に7名、後期課程に8名、生命環境科学研究科の後期課程に2名、博士課程（獣医）に1名の入学生を迎えた。秋季の入学式は、留学生が多いこともあり、昨年からは、英語で行っている。今年の司会は、学生課の清水主査。



式辞では、4月に話した内容を少し整理して、大学の紹介から入り、二つのストーリーを引きながら、十八番の話をした。要旨は、利品の杜で見た地図は東南アジアと大阪で交易をする上で、だいたいのポジションがわかればよく、その間で出発地と目標地とその間の航路があった。人生においても自分自身の地図を描き、今いる自分と将来ありたい自分を押さえて、成長してほしい。成長には府大の先生、先輩、友人が大きな力になるはずだし、なりたい、ということだ。

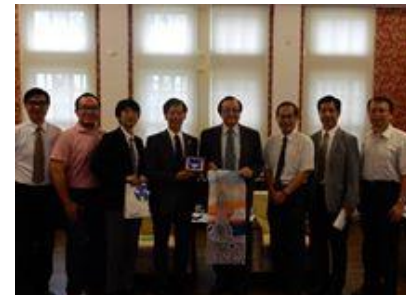


## 10月3日 台湾師範大学を訪問（22日）

昔は高等学校だった校舎を活用して今は大学となっている。中国語教育は小教室で70か国1500人の留学生が学び、短期も含めて日本人も300人いるらしい（定かではないが、駐在している方が語学学習として来ているケースも多いように聞こえた）。華僑として東南アジアにでている方の子どもが多いみたいだ。文化遺産の修復をしているところを見学させていただいた。東京芸大出身の先生が指導をされていた。



府大とは理学系研究科が中心に研究交流していて、来春にはさくらサイエンスプログラムを利用して学生や若手教員を招へいする予定だ。それ以外にもすでに9名の受け入れを行っており、英語の短期語学研修についても相談していく。





#### 10月4日 辞令交付（採用と昇任）

10月1日付で二人の方を採用し、三人の方が昇任となった。新たに採用した増山直輝助教（電気情報系）は、マレーシアのマラヤ大学で研究された方だ。富田亮三助教（看護系）は臨床経験もあり、また、本学で非常勤で実習指導をしていた方だ。昇任されたのは、川手憲俊教授（獣医系）、弓場英司准教授（物質化学系）、村岡和幸准教授（物理系）。川手先生は大型動物の臨床、弓場先生はドラッグデリバリー、村岡先生は宇宙の分野でご活躍であり、今後もますます発展して頂きたい。

私からは、

「高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点ということをそれぞれの立場で考え、地域とつながる国際交流、海外とつながる地域連携を実践してほしい」「多くのご苦勞をおかけするだろうが、法人統合の設立が成功するよう前向きな議論をしてほしい」「リスクについて厳しい目で臨んでほしい」「府大の匂いって何だろうという視点で学内の文化、伝統、帰属意識について考えてほしい」「何事についても自分の行動を俯瞰し、自分なりの地図を描いて、今のポジショニング、競合者のポジショニング、目標のポジショニングをしてほしい」という話をした。

皆様のご活躍を期待しています。おめでとうございました。

#### 10月5日 科研費申請書の学内チェック

大学にとって科研費は大切だ。少しでも多くの提案が採択になるように願っているし、準備のためのインセンティブ予算、書き方セミナーをはじめいろいろな施策を取っている。

今回、申請書の記載チェックをしてくれている研究推進課の

方々のオフィスを訪しご挨拶した(セロリ風味の美味しいお茶も頂いた)。応募要領に「書くように」と指定されている項目が抜けていたり、経費などで単純な足し算が間違えていることもある。これらはこの部屋

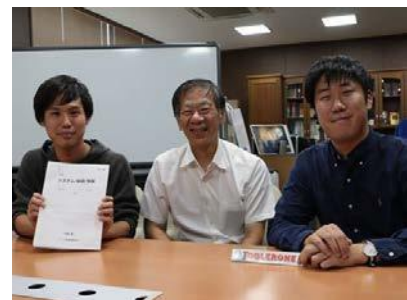


で漏れないように2回チェックして頂いている。機密の書類はすべてシュレツダにかけるので、その量も半端ではない。少しでも多くの採択を願っている。高度研究型大学—世界に翔く地域の信頼拠点を目指して。



#### 10月6日 情報系の二人の学生と面談

トビタテ留学ジャパンで 米国に 一年間 留学していた 常川君。帰国したと報告に 来てくれた。それとともに この11月から ベトナムでソフトウェア開発会社 (GUMI VIETNAM) に インターンシップに 4か月行くという佐々木君 (友好祭の委員長だったので ご存知の方も多いと思う) も 計画を語りに来てくれた。(二人は初対面)



常川君は、ビジネスとかマネジメントについて、夜間に社会人の学生とも学び、その方々の自宅にも招かれたそうでいい経験を（出発前もそうであったが）楽しそうに語ってくれた。車にも乗り回していたようだ。ヨーロッパ経由で帰国し、フランス EISTI に留学している後輩（ダブルデグリーに挑戦中の森岡君で彼も情報系）とあったり、留学先で知り合ったスイスの友人の自宅に宿泊したり、……。帰国して大阪が嫌にならなければいいが。

佐々木君は ホーチミンで会社が用意してくれる寮に入るとのこと。モータバイクにはくれぐれも乗らないように注意した（すごく渋滞しているのだ）。日本から発注されるソフトウェアをベトナム人と英語で会話して開発する（これをオフショアソフトウェア開発という）実習ということだ。私は10年ぐらい前にオフショアソフトウェア開発のリスク分析の研究をしていたので、その解説論文を（半ば強引に）プレゼントした。実習ばかりでなく、アンコールワットと上海ぐらいは観光に行こうとしているらしい。

大学広報でも彼らの活動取材して、後日、お知らせしていただくことにしている。お楽しみに。



#### 10月7日 台湾教育部の幹部と昼食(22日)

Deputy Education Consellor の黄氏に昼食に招かれた。この22日は、朝が台湾師範大学、午後が台北科技大と淡江大学と4か所を回る強行軍だった。

昼食には、交通大学におられる柳名誉教授、日台交流協会台北事務所の文化室主任塩沢さん、台湾海洋大学の鄭先生も参加された。

修士を含めて、台湾では博士課程に進学する学生が減っていること、2000年頃に大学を増やして、全国で150校あるが、少子高齢化で統合が不可欠なこと、日本との連携を強化していきたいことなど多様なお話を聞き、府大のこの15年の動きなどについても質問を受けた。



#### 10月8日 タイに 海外インターンシップに行った学生さんから 意見ヒヤリング

年間500人の府大生を（大学院生だけでなく学士課程の学生を）海外に派遣したい。協定校に短期の交換留学があれば長期の交換留学もある。また、インターンシップで就業経験することもあれば、語学研修あるいは海外での国際会議発表の前後に大学や研究機関で武者修行することもある。実態（実数）を把握するとともに、成果がでているかどうかもお聞きしたい。

どうすれば その目標数に 近づけるかの学生の意見を聞くために、この夏にタイのPSUで交流してきた現代システム科学域生（環境システム学類とマネジメント学類）に（引率した柳本先生ともども）来ていただき 意見をお聞きした。（ありがとう）。奨励金による支援、プログラムの丁寧な説明、先輩からのロコミなど いろいろな話が聞けた。学内にいる府大の留学生との交流は まだまだ 改善の余地がありそうだ。中には 受験前にどのようなプログラムがあるかを チェックしていた学生もいた。

本日の議論では、単発ではない（行ってきただけで終わらない）プログラムに仕立てていくのがよさそうだ。今回 PSUと交流したので、先方の学生をたとえば、さくらサイエンスプログラムで 招へいして、新たな学生を含めて 府大で 交流する。その交流した学生が 次に 留学し、そこでも 新たな学生を巻き込む。この輪が 少しずつひろがるというイメージだ。

昨年、韓国に語学留学したという学生もいれば、来年度に休学して、ドイツへの留学を考えている学生もいた。積極的に グローバルに学ぼうという学生の話は楽しい。教職員が 知恵を絞って 支援を強化したい。



#### 10月9日 第2回古市古墳群ウォーク(目指せ！世界遺産登録)

羽曳野キャンパスの荒井所長はじめ皆様にお世話頂いて、古墳群ウォークに夫婦で参加した。羽曳野市(世界文化遺産推進室 南里室長 武村室長代理、文化財保護課 高野参事)・藤井寺市(世界遺産登録推進室 山田室長)の専門家に各スポットで説明をしていただくという嬉しいものだ。大阪府及び堺市の担当の方も参加され、総勢(たぶん)26名。

天気にも恵まれ、ゲストプロフェッサーで見えているイギリス・シェフィールド大学 Dr. Platon Kaparanos ご夫妻も参加(各所で、英語での説明環境ができているかどうかチェックしやすかった)。イチジク畑を横目に太古のロマンを感じた。だんじりや蒲団太鼓にも遭遇した。

ルートは次の通り。一部見学場所では、「藤井寺市古墳探検」などのアプリが利用できることもわかった。一方で、カメラスポットが少ないのがすごく残念。工夫できるのではないだろうか？このことに限らず、世界遺産登録に向けて、府大生が何か提案できないだろうか？そのためにも、多くの府大生に歩いてほしい。



古市駅スタート（約6キロ）

○古市駅東広場 13:00～13:20

百舌鳥・古市古墳群の価値や当日のルートについて解説。

○墓山古墳・向墓山古墳 13:35～13:45

前方後円墳と陪冢関係について見学。

○野中古墳 13:50～14:00

大量の甲冑や武器が出土した古墳を見学。

○応神天皇陵古墳外濠外提 14:10～14:15

新しく整備された史跡について見学。

○応神天皇陵古墳拝所 14:25～14:35

日本で第2位の大きさを誇る雄大な姿を見学。

○アイセルシュラホール 15:00～15:55

出土した鉄器や水鳥形埴輪を見学。また、テラスより仲哀天皇陵古墳を見学。

○津堂城山古墳 16:30～16:50 出土した石棺のレプリカを見学。

○藤井寺駅解散 17時半 最後にウォーキングで廻った古墳や展示施設の古墳カードを頂いた。



## 10月10日 公立大学協会 学長会議における LINKtopos

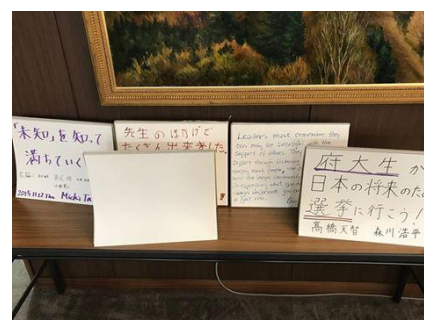
10月の三連休には毎年学長会議がある。今年は大阪市立大学で、4年前からこの会議にあわせて LINKtopos という学生の集まり（学生ネットワーク）があり、今年で5回目（2泊3日の合宿形式）。「学生」にも「学長」にも「地域」にも影響を与える場となっている。

本学からは、「ボラセンの運営自体がボランティアという考え方」というポスターを野尻さん（総リハ：栄養療法学専攻）発表したほか、右君（マネジメント学類）が副会長として動きまわり、木下さん（機械系学類）がカメラマンとして参加していた。横では、本学の奥野前学長（公大協専務理事）が、「ここまできたか」というようなお顔でニコニコされていた。

配布資料には、2013年岩手県立大学で代表として運営した日野浦君や被災地ボランティアや防災啓発活動で活躍した荒木君のメッセージが掲載されていた。もう4年経つんですね。

## 10月11日 衆院選が公示（10日）

18歳以上に選挙権が与えられて初の衆院選が公示になった。すでに1,180人の立候補があったという。先の参院選の時も何回か書いたので今回もそれを振り返りながら書いてみようと思う。新聞によると、18歳、19歳人口は240万人。一方で、90歳以上も243万人。70歳代、80歳代をあわせて2,383万人。20歳代、30歳代をあわせて2,650万人。これをどう見よう。前回の参院選では、18歳、19歳の投票率は50%に達せず、全体の54.7%から見るとかなり低かったようだ。人口比率の低い若者の投票率が低いということだ。学生さんには、選挙というイベントを契機に、短未来の、そして将来の世の中を考えてほしい。



語ってほしい。そして、たとえ、白票であっても 投票に行ってほしい。

#### 10月12日 府大における「学びのあり方」について

8月初旬に 一回生の学生から 連絡を受けた。「授業改善について話をしたい」とのこと。「夏休みあけに話そう、誰か一緒に来てもいいよ」と連絡していたところ、10日に 5人で 来てくれた。卒業生もいれば、休学している学生もいれば、羽曳野で学んでいる学生もいて 実に多様だった。

5人で あらかじめ よく話し合っていたのか、授業フィードバック、3つのタイプに分けた学生の学び、羽曳野キャンパスの課題について メモにまとめて きてくれていた。高校(愛知県名門校)時代の授業フィードバックの話も聞いた。教職員も これらについて 日ごろから考えて 少しでも改善しようとしているが、学生さんも 一緒に 考えてくれていることが 嬉しい。

とても ここで書ききれないが、聞いたことを 受け止めて 対応していきたい。在学生や卒業生が来た時には キャンパスに メッセージを書いてもらって一緒に撮影することが多いのだが、議論の終わるのが 遅くなったので、今回は パスして 次回があれば、そのときに 書いてもらう約束をした。キャンパスは 5つあって、メッセージを 来室者が見れるよう 部屋においているのだが、今回のことを 記憶するために 当面 白紙のものを 一つ 置いておくことにした。

#### 10月13日 衆院選は22日投票

昨年の参院選の前に投稿した内容を4回にわたって再掲しつつ、今回の衆院選をみてみよう。再掲部分については、特に時点修正をしていないので、年月日はその時のものである。

私が選挙権を得た時の衆院選は中選挙区だった。一つの選挙区から複数の当選者が出るので、政党内の派閥争いが激しかったし、安定多数を一つの政党が確保することが難しかった。そのため、政策が決まらず停滞するという問題もあった。

一方で現在の小選挙区制になってからは、政党の派閥争いも減り、投票数の差が少なくても安定多数を取ることが可能になった。そのため、反対が多い政策でも通ることが多くなった。

ぼやいていても仕方ない。制度の中で誰に投票するかだ。

---昨年参院選前のポスト(1/4)-----

投票についていろいろある。専門家ではないのですべてを網羅的に語ることも体系立って語ることもできない。

国会等政治家を選ぶのは単記投票だ。小選挙区では、一回の投票で最大得票者が当選する。区割りなど一票の格差が話題になることが多い。ローマ教会の法主を選ぶのはコンクラーベといって、誰かが3分の2以上の得票になるまで続けられるそうだ。2分の1ではないので、長々と続く(まさに根競べ) ことがあるようだ。

多数決が民主的かどうかという議論もいろいろある。五階建てのマンションのエレベータ工事の費用を一階の住人だけが負担するというのを投票したらどうなるか、というのも一つの話だ。



連記投票、ランキング投票、採点投票（フィギュアスケートなど）、累積投票（持ち分10点を配点）、一対比較投票（そしてそのパラドックスの逸話）などもある。う〜ん。

今年は米国の大統領選もある。府大生、特に初めて選挙権を得た皆さんにはぜひ10日（注：昨年の参院選）に選挙に行って、（その前後の期間も含めて）投票についてのいろいろな考察をしてほしい。

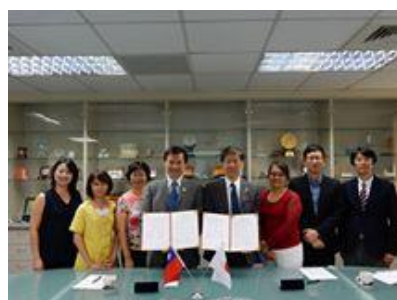
#### 10月14日 台北科技大と学術交流協定書を更新（9月22日）



いつのまにか、かなり前の話になってしまった。2011年に学術交流協定、学生交換覚書を締結していたが、先月の訪台を契機に、更新の調印を行った。ここも理学系研究科が中心に交流しているが、工学研究科や高専も交流してほしいと思う。

Eliverilght Building というのが、電機メーカー社長になられたOBから寄付されていて、学生が3Dプリンターなど材料費だけで利用できるようになっていた。アントレプレナー教育でも連携できそうだったが、ツアーの見学時間が長く、つっこんだ話ができず少し残念であった。

帰国後、理学系研究科の先生とは、サマーキャンプを共同で実施できないか相談し、検討していただくことにした。うまく進めばと願っている。



#### 10月15日 カンボジア交流に潜む私のメモリー

広島生まれの被爆二世として生まれた私は、爆心地近くで被爆し、たまたま生き残った母親から「核戦争はいやだ。核は廃止すべきだ」と何回も聞かされて育った。広島島の記念館にも何回も行って、戦争の恐ろしさに衝撃を受けた。日本の戦後は戦争の教訓をベースにしつつ、周辺の脅威にどう向かうかの議論が続いている。

今から25年前は自衛隊を海外派遣することなどなかった。平和維持活動(PKO)すらなかった。歴史を学ぶ、海外の政治を学ぶ、学生さんには、いろいろなことを調べて、ぜひ、投票に参加してほしい。行かないのは棄権ではなく、白紙委任を示したことになる。

---昨年参院選前のポスト(2/4)-----

2010年にはじめてカンボジアに行った。以来、教育・研究でこの国に貢献できないか考え、府大生にもこの国を少しでも知ってほしいと思ってできることを行ってきたし、今でも同じだ。

その動機は 1993年の出来事に さかのぼる。私が 39歳のときのことだ。カンボジア国民議会の選挙があつて、選挙妨害を 阻止するために、日本から はじめて（当時は 自衛隊を派遣できなかつたので）文民警察が 派遣された。この派遣についても 国会で 大論争があつた。

そのとき 派遣された隊長が 私と同年だつたこともあつて 今でも 関心があるのかもしれない。派遣された部下の若い警官の一人が 射殺された。隊長は どれだけ責任を 感じられたらう。インタビューされていた画面が なんとなく 記憶に残っている。監視のために 国連ボランティアをしていた中田さんも 殺害された（先日ご尊父がなくなつた報道があつた）。

選挙というものの重さを感じた瞬間だつた。投票率は 89%だつたという。日本では想像もできない 選挙妨害がなされる国があつた。今もどこかに同じような国・地域があるかもしれない。

#### 10月16日 同窓会の出席予定

次の集まりに出席を予定しています。少しでも多くの OB/OG の方に大学の近況をお伝えするとともに、先輩方のご活躍の様子をお聞きしたり、大学への支援をお願いしたいと思っています。

**Greater OPU の構築を目指して！**

11月5日：ホームカミングデー（中百舌鳥キャンパス）

併設で、当日、多くの単位同窓会が開催されます。250人ぐらいの参加が見込まれています。

11月12日：広島同窓会（ANA クラウンプラザ）

最近、大阪女子大や看護大の OB の方も参加されています。

11月18日：岡山同窓会（ピュアリティまきび）

今回は 50周年記念です。若手の参加も増えています。

1月10日：陵友会・新年会（ハービス大阪）

毎月第二水曜日に活動されています。OB の府大若手職員、府職員がもっと増えてほしいです。

2月4日：東京同窓会（明治記念館）

11日ではないので注意してください。

#### 10月17日 状態と入力と出力

学生さんにとって、選挙というものも一つのイベントであり、「入力」と考えてはどうだろう。それを通して、何かを学び、自分の内部状態を更新する。「状態」を更新する中で、投票という「出力」をする。選挙する機会（そのときの社会情勢という「入力」をもとに投票という「出力」を行う機会）は 今回だけでなく、毎年のように まだまだ あるが、自身の内部状態を更新し続ける習慣をつけてほしい。

選挙を棄権することは、「当選者への白紙委任ではない」はずだが、結果的にそうなることを覚えておこう。少なくとも、昨年まで付度という言葉は私は知らなかつた。当選者が当選後にとる行動は、支持者だけの代表としてではなく、投票者全員の代表としてであつてほしい。説明責任もある。支持者以外の意見を聞こうともしない人には当選してほしくないが、それを見極めることは難しい。

---昨年参院選前のポスト(3/4)-----

少ししつこいかもしれない。18歳以上の学生さんには行ってほしい。周りにも誘ってほしい。何事にも関心をもつ。選挙権、参議院、憲法、……。どうすればいいのかわからないときには調べる。図書館でもネットでも。そして友人と語る。そういう習慣をつけるのが大切ではないだろうか。(選挙に限らず)何かイベントがあるときに(まず)一歩成長する。長期的な観点、広域的な観点、根本的な観点。思考を楽しむ。そういう府大生であってほしい。



#### 10月18日 防災訓練(17日)

第6回目の防災訓練を行った。雨天のため、いくつかの訓練を中止したが年次行事として定着してきたように思う。南海トラフ地震が近い将来くる可能性が高く、起こったときには、自助、共助、公助の考え方をもち、まず、自分で安全を確保し、周囲と一緒に避難すること、安否を連絡することが大切だ。

実は、前職時代、職場消防隊として、2週間に一度、消防自動車の運転士をしていた(残念ながら写真は残っていない)。消火ホースの手広め、二重巻きなどの扱い、消火器の扱いも2週間に一度訓練していた。年始には地元の消防署に混ざって、出初式に出動し、クスダマを割ったりもしていた。へっぴり腰であるが、ホースを延長し、水が出るのを待つ写真があった(当時はメガネをかけていた)。懐かしい。

天災だけでなく、いつ、どこで災害にあうかわからない。いろいろなリスクを把握し、それを低減する策を施すとともに、発生した時に何をやるかのイメージトレーニングをしておくことが大切だ。起こる可能性のあるものは必ずいつかは起こる。歴史が証明している。

#### 10月19日 堺市・バークレー市姉妹都市提携50周年

13日に両市長出席の元、記念式典・レセプションがあり、私も来賓として出席する機会を得た。両市の提携は、52年前に府大生が堺市長の親書をバークレー市長に届けたことが始まりとなっている。その後、本学とUCバークレーは活発に交換留学などを行ってきたそうだが、90年前後から交流が薄らいだようだ。米国の大学との交流としては、西海岸にあることも加え、自治体同士が強いきずなで結ばれ、ホームステイも活発に提供されていることから、何とかならないかと思っている。



その考えの元、4月に渡米し(同地の府大OBとともに)同校を訪問し、この8月に緑地環境関係のシンポジウムにUCB関係者3名を招へいた。これからどう発展できるかは、関係教員の努力に期待したい。世界に翔く地域の信頼拠点として。

#### 10月20日 一票の重み、そして棄権と白票の違い

「もし」ということが語られるなら、今、どうなっていたら。時々思い出すのが、2年前の住民投票。賛成多数になっていたら、いくつかの場面で大混乱が起きていたかもしれない。その一方、他に先駆けるいろいろなチャレンジを見れたかもしれない。





この話は同窓会や在学生の前で何回か話をしているので、ご存知の方も多いかもしれないが、再掲しておきたい。

---昨年参院選前のポスト(4/4)-----選挙権：一票は影響を与えないか？白票はどうか？

イギリスでEUROを離脱するかどうかの住民投票があった。関心をもった府大生も多いのではないと思う。学内にも18歳以上に選挙権があることを示して投票を誘う垂れ幕が出ている。見た学生も多いのではないと思う。何万人もが投票するときに「自分が行こうか行くまいが結果には影響はない」と思いがちだ。確かにそういう側面はある。だけど、若い人特に今回新たに選挙権を得た学生には「権利を行使すべきだ」という問題意識を持ってほしい。

例えば、昨年行われた大阪都構想に関する住民票の結果を見てみよう。

賛成 695 万票 反対 706 万票 危険 695 万票

反対が賛成より11万票も多いとみてしまうと「自分がいってもいかなくても変わらない」ということになるが、これを例えば201人(少し大きい教室の定員だろうか?)が投票権をもったとみてみると、賛成70人、反対71人、危険70人の比率だ。反対の人が一人棄権すれば同点、二人棄権すれば逆転、棄権の人が一人賛成していれば同点、二人賛成していれば逆転なのだ。比率でみると、如何に僅差かがイメージできると思う。上記の差はその積み上げだ。

橋本前市長は、「白票でも入れるべきだ。候補者はその白票は次回に自分の票になるか相手の票になるかを気にして政治に取り組む。棄権だとそういうプレッシャにはならない」と言われていた。うまい表現だと思う

#### 10月21日 過去の投稿とメディア掲載記事

2016年1月20日から、毎日一件ずつ投稿している。常体か敬体か、感想か事実か、いろいろ混ざっているが、個人として書いていることをご承知いただき、大学の動きや様子を知って頂ければ幸いです。他に同窓会報、メディア掲載記事なども府大公式HPにまとめています。

#### 10月22日 淡江大学(台北市)で協定書を更新(9月22日)

もう一ヶ月も前のことになってしまった。22日は4か所をまわり、それぞれについてポストしたので、遅くなった。

ここは、台湾の私立大学トップの総合大学で学生数は27,000人という。本学とは2012年に学術交流協定を締結しており、そ



れを先月の訪台時に、更新するとともに新たに学生交換の覚書を締結した。写真でもわかるように非常に華やかな場であった。

華僑に子弟が多いように思われるが(たぶん、短期も含め)留学生を毎年1000人受け入れ、正規課程にはいる在籍者は2,000人という。一方で、博士だけでなく修士についても、大学院生は年々減少していて対策が必要らしい。これまで進学してい

た学生が、就職するのか、あるいは国立大学に進学するのか、それとも海外に留学するのか。

社会科学系で日本の大学との交流が活発ということであるが、府大は、バイオ・化学関係で活発に交流しており、特に情報系を含む工学と理学での交流を期待された。サマーコースの共同実施について提案したところ、前向きに検討して頂けそうだ。



#### 10月23日 函館旅行で OB と遭遇

台風が来ているのが気にはなっていたが、2か月前から予約していたので、一日休暇をとり、二泊三日で函館（そして大沼公園）に出かけた。下田と並んで江戸時代末期に国を開いた場所なので一度行きたいと思っていたのがやっと実現した（写真は五稜郭）。



往路の便では、どうも研究室の教え子 S 君（私の前職の会社に勤務）が乗っていたらしい。飛行機を降りて数時間後に知った。復路は、（函館⇒伊丹）欠航になり、羽田経由で帰阪したところ、その便で、隣の研究室の卒業生 T 君に遭遇した。世の中は狭い。

T 君は、バッファロー出張から昨日帰国したが、成田で乗り継いだ便が伊丹に着陸できず、羽田に着陸し、そこで一泊過ごすことになったという。頻繁に出かけているそうだ（翔いているなあ）。おかげで、彼の仕事のことも少し聴けた。

外にでかけているとあちこちで府大生 OB/OG に会う。気づかないだけで、もっともっと出会っているのだと思う。そういう出会いがもっと作れるように Greater OPU というネットワークを作れないかと思う。いろいろな方がそれぞれのペースでこういうネットワークをお持ちで使っているのだろう。できるところからでいいので、皆で一緒に努めたい。

#### 10月24日 台風

堺市をはじめ、近畿地方も台風 21 号の被害を多く受けた。被害を受けた方々には、心よりお見舞いを申し上げたい。（南海本線など不通区間があり通勤・通学が大変になられる方もいると聞く）

先週末には、警報・注意報が出た時の対応の確認、特に公開講座の対応についてはしっかりとシミュレーションした。考え出すと皆「あんなったら」「こうなったら」とシミュレーションが終わらないので、最後には「入試ではないので・・・」という一言で、やっとある意味「ほっ」とした顔つきになった。今までに聞いている学内の被害は、

- アーチェリー場の樹木が一本倒れ、C6 棟の屋根が一部破損
- C5 棟等において雨もり、水染み等
- 羽曳野キャンパス L 棟 屋根 銅板落下

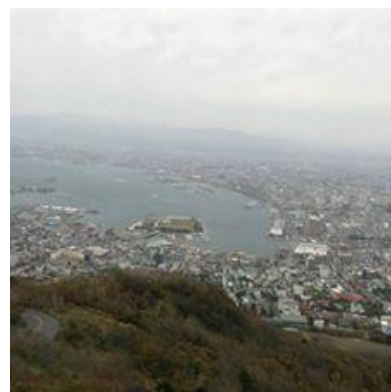
幸いにして、今まで、業務に支障のある報告は来ていない。

#### 10月25日 情報を受発信するアンテナが気になるこの頃



情報を伝達したり、収集するのは簡単なようでなかなか難しい。当然、伝わっていると思っていることが伝わっていなかったし、「へえ、知らなかった。そうやったんや」と言うことが少なくない。最近、アンテナを見るとそういうことを強く思う。先日、函館山に行ったときにもそれが気になり思わず写真を撮った。

その函館山からは（近くだけでなく）遠くまで見える。左右広く見えての海の違いを比較することができる（パノラマ写真）。麓の洋館（洋風公民館、洋風協会）を眺めて歴史を感じることがもできる。情報のこと、長期的思考・広域的思考・根本的思考の大切さが心によぎったよい機会だった。



10月26日 平成30年度学生募集要項（一般入試）が完成

学生さんで母校を訪問する機会（訪問しなくても、何らかのネットワークをお持ちの場合）には、後輩にぜひ、声をかけてほしい。教職員が高校などを訪問するときには、各支援室・羽曳野キャンパス事務所・りんくうキャンパス事務所で入手できる。

迷っている方、本学のことをあまりご存知でない方に少しでも情報を届けてほしい。

10月27日 学長顕彰

学業、研究活動、課外活動等において 顕著な功績があり、他の模範となる個人 及び 学生団体に、その功績を称えるために 顕彰を 白鷺祭中に行っている（11月3日11時から学术交流会館）。今回も 14件の団体、100件の個人を予定している。該当者、指導教員には ぜひ 参加してほしい。また、保護者の方のご出席も歓迎する。

対象者は 次に 該当するものだ。

- (1) 学業、研究活動において 顕著な功績があったもの。
- (2) 課外活動等において 顕著な功績があったもの。
- (3) 自発的な意志に基づいて行われた計画的かつ継続的なボランティア活動等社会奉仕活動で功績があったもの。
- (4) 災害防止又は災害時の救援活動に 顕著な功績があったもの。
- (5) そのほか 学長が特に顕彰に値すると認めたもの。

なお、学生の活躍を称えるのは、学長顕彰が すべてではなく、部局で顕彰したり、大学広報や学長 FB で紹介したり、いろいろな工夫をしている。もっといろいろな工夫できることは していきたい。世界に翔く地域の信頼拠点として。

10月28日

ずっとプロフィール写真を変更していなかったが、一度、気分転換で。前職時代の職場の北原先生にパワーポイントで描いていただいた。彼のパワーポイント美術館はすごい。どうして、パワポでこんな絵が描けるのだろう。



10月29日 今週の予定

31日に「府大 全員広報宣言」のキックオフとして 職員サポーターの方に 集まっていただく。1日には、東京の JST に 行き、(しっかり準備して) ダイバシティ研究環境で支援を受けてきたことに対する中間報告、その前後に 府大 OB リクルータとの面談、学振に出向している職員と懇談。2日は、フィリピン師範大学の方に面会。3日は、いよいよ 白鷺祭。天気がよければいいが。10時に オープニングセレモニーに出て、11時に 学長顕彰表彰式。13時に タイのマヒドン大学の方と面会。14時から 3つの企画イベントに参加し、その後、保護者のための就職、キャリア講演会に (Uホール)。夕刻は、梅田でOB経営者交流会に出席。

5日は、ホームカミングデー。朝一番に ビジネスアイデアコンテスト (サイエンスホール)、その後、入試ガイダンス、11時に「府大の沿革、今、これから」の講演会。12時に (多くの学生さんに芋協力いただいて) ウェルカムパーティ。250人前後の参加が見込まれている。午後は 留学生日本語弁論大会 (国際交流会館 I-wing なかもず) とオープンラボ見学。

準備頂く関係者の方には、感謝するとともに最後の追い込みをお願いする。



10月30日 Prof. Martenson from Malmo University

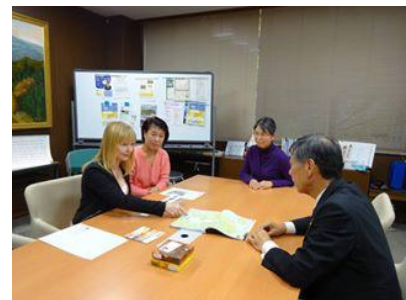
26日午後に、教育福祉学類の山中先生が招へいされたスウェーデンのマラモ大学のモーテンソン先生が立ち寄って下さった。私の学生時代には、同国は性の先進国というイメージで、数十年先に日本もそうなるのだろうかという疑問にも思っていたように記憶する。

マラモというのは、コペンハーゲンの近くだそう。教員個人個人の研究のつながりが、グループでの交流、大学での教育の交流になって、ダブルデGREEプログラムなどができればと思う。福祉だけでなく、看護とも関連する分野ではないだろうか。個人の交流ははじめやすいが一人が引退すると終わる。組織の交流ははじめにくいが頑健だと思う。



10月31日 全員広報宣言

私たちは アンテナを 増やそうとしています。Greater OPU の 多様な活動を ウォッチできるアンテナ群であり、受験生の声や社会の声を集めるアンテナ群でありたいと思います。私たちの魅力や優しさや卓越さを融合して Greater OPU Network を さらに大きく強く逞しく 広げるために 皆で 一緒に 学内外という世界に発信するアンテナになりませんか。名刺にシールを貼ったり、目立つところに顔を出したり、府大バッグが写真に写るようにしたり、何が有効かを検証しながら、努力していきます。



## 11月1日 投稿のリーチのフォロー

facebook ページは 投稿が どれくらいの方に届いているかを 知らせてくれる。ときどき チェックしているが、これまで 大体 500 人～ 1,000 人に 届いているようだった。ページの フォロワーが 500 人になっているので、そういう 数字なのだろう。8月に 最大の 6,000 人に到達したのは、百舌鳥・古市古墳群の世界遺産登録に関して、国内推薦を受けたことを速報したときのものだ。学生さんのことを書くと リーチ数が伸びることも わかってきた。

ところが、最近、200 人以下に急減しているとともに ページからは「広告をだして、近隣にお知らせしませんか」と 来るようになった。「う～ん」。プロフィールを変更したときも、「いいね」を たくさんいただいたが、それでもリーチは 200 以下だ。何かコントロールされているのかもしれない。



## 11月2日 白鷺祭

いよいよ 明日から。天候にも 恵まれそうだ。卒業生も 帰ってくる ホームカミングデー。保護者にも 来ていただける 就職・キャリア講演会。受験生向けの説明会もある。今年は 次のメッセージを 書いた。



さて、今年の本祭典メインテーマは『時計じかけのワンダーランド』が選ばれました。よく考えずに 設計されたアナログ時計では、歯車等の一つのパーツが機能しないと 正しい時間が表示されません。一方、自律分散的に 部品が動くように設計されていれば、仮に 一つの部品が一時的に故障しても 他がそれをカバーすることにより、全体としての機能を きちんと 果たします。

イベントには トラブルが つきものです。この白鷺祭においても、仮に 何か 不測のことがあっても 全体としては きちんと 機能を果たすことで 成功となるものと思います。また、大学は 皆さんの不思議や驚きの詰まった場、まさに ワンダーランドだと考えます。本学の持つ 様々な資源や知見を楽しんでもらえればと 思います。



11月3日 女性研究者支援事業の中間ヒヤリング(1日)

ダイバーシティ研究所と女性研究者支援センターで行っている事業、その考え方を実績データとともに丁寧に説明してきた。データを見て評価することがよく求められるが、それよりも先に、ある目的を達成するためのプロセスを確立し、それを堅実に実行することがより大切だと思う。プロセスさえ確立すればデータは後からついてくるというのが私の経験からの知だ。

数字ばかりに一喜一憂することなく取り組みたい。

11月4日 フィリピン師範大学の方と面会

2日、府大を訪問して、教育福祉学類の先生方と交流したり、植物工場など学内施設を見学する合間に、私を訪問して下さいました。これまで府大生がステディツアーだけでなく長期の留学でもお世話になっているので、逆に、さくらサイエンスプランなどを利用して招へいしたいと思っている。

短い訪問だったが、府大の先生と学生がでかけて実施する共同サマーキャンプ案やダブルデGREEプログラム案についても紹介できた。単に訪問を歓迎する形式的なものにとどまらず、プログラムの具体例を示して、共同実施の可能性を意見交換する習慣をつけていきたい。

11月5日 11月6日の週の予定

7日、午前、大阪府新井副知事面会、午後、近畿大学重岡農学部長(府大OB)来訪。

8日、午前、ベトナム国家大学来訪、午後、フランス・ヴァルドワーズ県代表団来訪。

夜、大阪府主催の同代表団歓迎宴。

9日、5大学シンポジウムで挨拶とレセプション(大阪府立大学、韓国化学技術研究所、

華東理工大学(中国)、福州大学(中国)、淡江大学(台湾))

10日、京都賞授賞式。

11日、午前、日本ボッチャ選手権大会審判、午後、高専祭。

12日、広島同窓会

11月6日 山口東京理科大学の森田学長

2日夕刻に、山口東京理科大学の学長から電話が入った。特に交流があったわけでないし、メールでの連絡や依頼ならともかく、ご本人が最初から出て交換経由で着電したので何事かと思った。「ひょっとして、新百合ヶ丘グリーンタウンにおられた辻さんではありませんか」というところから入った。確かに30年前に住んでいた。話を聞いていくと、当時お互いの息子たちのサッカー教室でボランティアコーチをしていた仲間だったことが分かった。



森田先生も民間会社の研究所勤務で、2011年から大学教員に転身されたという。先日、大阪市大での学長会議でも私のことが気になったそうだ。最後は、電気学会の掲載された随想「世界地図を描く大切さ」を見て、30年前の私の面影を確認されて連絡頂いたとのこと。

不思議な縁だが大切にしたい。ちなみにその随想（入学式の式辞を基にしたもの）は学会の許可をえて、大学HPに掲載している。



### 11月6日 白鷺祭を終えて

白鷺祭とその併設イベントが盛況のうちに終わった。私は今週末も予定があるので、本日は休みを頂いた。ある職員の方から、メールが届いた。

「・・・構内は昨夜まで大学祭があったとは信じられないほど、ゴミが一つも落ちていません。今日は授業日なのに、昨夜遅くまで・・・、綺麗にしてくれたのだと思います。・・・」

また、応援団には（本学のホームカミングデーの出番があるのにその直前に）大阪市大のイベントに行ってもらった。荒川学長から、お礼のメールが届いた。

他にもいろいろ嬉しい声が直接、間接に聞こえてくる。反省すべきことはあるだろうが、反省が成長をもたらすし、次の目標にもなる。関係者の皆様の努力に心から敬意と感謝をする。

### 11月7日 学長顕彰祝辞「風」（11月3日）

秋の顕彰を盛大に行うことができた。あまりに多くの方に次から次へと表彰状を手渡したので、いざ、祝辞を述べる時に一呼吸必要になってしまった（失礼しました）。

祝辞や式辞を含め、挨拶を述べる機会は多いが、果たして、どれだけの方の記憶に残るように話しているか、あるいは、そもそも型通りの話がよくて記憶に残る話などする必要もないのか、気になっている。入学式や学位記授与式の挨拶では、できることなら将来、思い出してもらえそうな話をしたい。

これまで「天橋立」、「カーナビ」、「流れ星」、「利晶の杜の地図」の話をつくかの場で話してきたが、「また同じ話だ」と言われたくないので、今回は、新たに「風」の話をした。この話するのは、本日がはじめてだったので、聞きにくいところがあったかもしれない。少しずつ洗練化させていろいろなところで話そうと思っている。



### 11月8日 2025年国際博覧会を大阪・関西へ

「万博 会員」というキーワードで検索すれば、いつでも簡単に「誘致賛同者」の会員になるページにアクセスできる。誘致に成功するためには地元の盛り上がりが必要だ。競合のパリ市でも



会員を多数集めているという。このような盛り上がりの有無が結果に反映するのは、百舌鳥古市古墳群が世界遺産に登録されるためにも同じこと。

私は、既に会員になっていたが、白鷺祭（3日）においても特設企画で、紙面に署名して会員を募集した。購入していたポロシャツもやっと出番があった。市大では、銀杏祭に吉村市長をお迎えして、イベントを開催されたという。府大でも松井知事をお迎えて、若者からの盛り上がりを高めたいものだ。



11月9日 マヒドン大学から大学院生が来訪(3日)

さくらサイエンスプランを活用して、マヒドン大学の大学院生を2週間招へいしている。日ごろは羽曳野キャンパス中心に病院を訪問したりしているが、休日であり白鷺祭期間中である3日にわざわざ学長室を訪問してくれた。

学生4名のうち2名はマヒドン大学シリラート校からで、昨年、私もお邪魔している。看護の先生や院生が先日、バンコクの学会に参加し、そのときはラマティボディ校を訪問し、ラマティボディ病院を見学させてもらったという。



11月10日 西君、ボート全日本選手権6位入賞おめでとう！

次は東京オリンピックを目指して頑張ってください。聞くところ、自転車より早いスピードでボートを漕ぐそうです。最近のボート部の活躍は目覚ましく、新入部員も激増しているとのこと。嬉しい知らせでした。(ちなみに全日本選手権は、社会人も学生も出場資格があり、学生では2位。過去の五輪選手にも勝ったそうで、五輪視野に社会人になってもトレーニングするそうです。写真でわかるように、メダルを首にかけさせていただきました)



11月10日 保護者のための就職・キャリア講演会(3日)

大学の活動を少しでも保護者の方に知っていただくために白鷺祭期間中に講演会を開催した。司会は、OGでテレビ高知の木岡さん、卒業生の講演は、ニフレルの棚田さん、採用側からの講演は中西金属の小野さん、学生は4名が小野さんのところで行ったインターンシップの報告。

天候にも恵まれ、156家族、221名の保護者の方に ご参加頂けた。アンケート(回答率61.54%)からは、「普段、子供から話しが聴けないのでこのような会で詳しい情報や、学生からリアル





な声を聞くことができよかったです。」「大学がしっかりと就職のサポートしているので安心した、今後も継続してほしい」など、概ね 好評なコメントが 寄せられた。

今後も、春と秋に 保護者のイベントを開催することで、継続的に 保護者の皆様にも 学生の就職に関心を持っていただけるようにしていく。

11月11日 ベトナム国家大学の教員・学生が来訪（8日）

現代システム科学域の興津先生のお世話で、さくらサイエンスプランで来日している方々が表敬訪問して下さった。アオザイを着て。多くの府大生が交流してくれていることだろう。職員もその輪に（強引にでも）入り込んでグローバルマインドを醸成してほしい。



11月12日 今週の予定：今週も夜の会食が続きます。

13日：府大講座で講演「府大の沿革、今、そしてこれから」と題して、

14日：アセアン大学連合意見交換、羽曳野キャンパスで学内会議、その後懇親会

15日：百舌鳥・古市古墳群世界遺産登録に向けた活動、博物館訪問、高専教員面談・会食

16日：仏ラロッセル大学学長来訪・会食

17日：ダイバーシティ研中間総括シンポジウム、同懇親会

18日：岡山同窓会（50周年記念）

11月13日 オープニングセレモニーで挨拶

Joint Symposium of Asia Five Universities（アジア5大学合同シンポジウム）という韓国化学技術研究所、華東理工大学、福州大学（中国）、淡江大学をお招きしたシンポジウムが 学術交流会館であった。200名を超える参加者があり、とても盛況だった。研究グループ同士の国際交流のモデル、教職協働のモデルとして定着していきそうだ。グローバル化推進室員を含め、準備された関係者の御尽力に感謝したい。

開会式で 挨拶する時間を頂いたので、「（1）国際交流には、個人が行うもの、グループで行うもの、組織で行うものがあり、（2）それぞれがどこを目指すか議論してほしい、今の交流と目指す交流を考えて、障害があれば乗り越えてほしい、さらに（3）長期的、広域的、根本的な議論をして 相互にメリットのある交流を 議論してほしい」と述べた。何分、自己流の英語なのでうまく伝わったかどうかはわからない。

11月14日 府大講座で講義して・・・

公開講座で「府大の沿革、今、そしてこれから」という話をした。多くの方にご参加いただいた。うっかり、最後に11月23日（木祝）13時にUホールで開催する、鈴木大地氏をお招きした「スマートエイジングとスポーツ」の広報するのを失念した。大失敗だ。（なので写真掲載する）

第14回 三大学連携講座  
スマートエイジングとスポーツ  
11/23 木祝  
13:00～16:00  
会場 Uホール  
講師 鈴木大地氏  
講演料 500円  
学生 無料（要学生証）

鈴木氏のバサロは25m 潜行(21回キック)であったが、ソウル決勝では30m 潜行(27回キック)とした。以降、潜行距離は10m(その後、12.5m(スタートとターンを合わせると25m)までに。  
その代わり、クイックターンを認めることになり、次のバルセロナオリンピックまでに、100mで1秒5近く、200mで3秒ほど、競技全体としては記録が短縮。  
なお、その後、さらなるルール改正があり、現在では潜行距離は15m(スタートとターンを合わせると30m)まで認められている。

<主な受賞歴>  
▼昭和59年(1984年) ロサンゼルスオリンピック 100メートル背泳ぎで11位 /17歳 (200m背泳ぎ1位)  
▼昭和61年(1986年) アジア競技大会(ソウル) 金メダル(100メートル背泳ぎ、400メートルドレーンレース) /19歳  
▼昭和63年(1988年) ソウルオリンピック 100メートル背泳ぎで金メダル /21歳

さて、講義後、お一人の保護者の方が声をかけて下さった。ご息が 昨年 短期留学して すごく 成長し、府大での学びについて大変喜んでいただいた。希望の就職先も 決まって、次のお子様も 府大を目指してくださるといふ。「海外から 見えた学生に対する ボランティアもしますよ」とのお言葉。こういう声を 聞けることは とても嬉しい。改めて、学生時代に 短期間でもいいから、勉強という視点で 海外に出て、そこの方と 交流を図ってほしい。教員も職員も卒業生も出かけた経験者も 海外に初めて出ようとする学生を支援する。

#### 11月15日 アセアン大学連合の前事務局長との意見交換

タイのチュラロンコン大学のナンタナ・ガジャセニ先生はアセアン大学連合の前事務局長。ASEANでの大学教育、学生交流における取組を前日、フォーラムの中で講演していただいたが、私は府大講座の講義があったため、意見交換できなかった。そこで、翌日に時間をとって頂いた。ASEANの学生のことをお聞きして、次のようなことを感じた。

----- ASEANの学生が、英会話力をつけ、留学を強く希望するのは、大学時代のその経歴が、そのまま、その後のキャリアに結びつくからではないだろうか。こういうアクションをしないと、希望する職につけないことになってしまうのだろう(ちなみにナンタナ先生はイギリス留学して学位を取得)。それに対して、日本では、卒業時に(短期を含めて)海外留学のような経歴がなくても、就職して必要であれば(府大の職員には必要です)、語学能力やコミュニケーション能力をつけることでキャリア的にハンディにならない(と思込んでいる)のではないだろうか(ちなみに私は33歳まで海外に出たことがなかったし、出ようとも思わなかった)。少なくともこれまでの日本ではやっていけたが、今後は、やっていけるとは思えない。だから、学生にも職員にもグローバルマインドを持ってほしい。

(意見交換の前に、廊下に掲示している認証評価の結果証明や府大の沿革を説明した)



#### 11月16日 百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に

10月に古市古墳群を散策したが、今回、大仙陵の拝所まで入らせていただく機会を頂いた。また、博物館でいろいろな説明(まさしく、説を明らかにするという印象)を受け、ヴァーチャルリアリティで、ドローンから見た百舌鳥古墳群を体感した。写真を見ると異様かもしれないが、皆が、首を振ってうなづいたりしていたと思う。「空から見たい」という(現実的な)願いを技術によって(仮想的に)克服しようということだろうか。



#### 11月17日 英語圏の大学との学生交換を増やしたい

堺市とニュージーランドのウェリントン市は姉妹都市だ。その関係でレスター市長と同市のビクトリア大学のデザイン学部副



学部長グレビッチ先生らが来校された。当方は、現代システムの杉村先生と高度人材育成センターの松井先生で学生交換のオプション資料を提示して可能性を議論した。

市長は高校時代に日本に留学されていて日本語が堪能。40万人都市で、釣りもできるそうだ。(私は南半球にまだ行ったことがない)

デザイン学部は、製品とサービスの融合の勉強を幅広くできる模様で、本学とのジョイント・サマースクール（ニュージーランドのサマーは1月～3月）やダブルデグリーにも関心をもってもらえた。前日にはラグビーコンサルティング会社の Joe Fiu 氏が来学され本学ラグビー部学生 15 名（顧問：徳本勇人先生）との交流会を開催している。学生交換の協定を含んで英語圏の大学との交流をふやすためにも、同大学との協定締結を目指したい！



11月18日 女子大 大仙学舎跡の碑と帝塚山発祥の地の碑

以前から訪問しようとして延び延びになっていた。実は、発祥の地の帝塚山（その後、看護短大のキャンパスにもなっている）から、大仙学舎（女子大の前は、農学部があった）まで、歩くつもりだった。夏に帝塚山を訪問したが、時間が足らず、大仙には行けていなかった。先日、大仙に行くことができた。

府大の今、今後を考えるには、過去を知ることが大切で、実際の場に立ってみることも大切だと思っている。これらの碑は、OGの寄付で建立されたものだ。



11月19日 今週の予定

20日：半年に一度の精密検査で 休暇

21日：午前、タイより 泰日工業大学来校、以前、学位指導した教え子が教員として 学生を引率。夜、藤井先生の ペプチド関連の学会の懇親会で 挨拶。

22日：午後、ドイツ Neu-Ulm University より教員 4 名、学生 24 名が来学。私の以前の論文を見てくれたのが きっかけ。

23日：大阪市大、関大との三大学連携事業で、鈴木大地 スポーツ庁長官が 来学。公開講座なので 多くの参加を 願います。

24日：今年度採用した卓越研究員 2 名と面談。



11月20日 ラロッシュェル大学の学長 来学（16日）

工学研究科の黄瀬先生が長く交流されていて、教員の相互交流でも実績のあるラロッシュェル大学の Jean-Marc Ogier 先生が国際会議出席の帰路、本学を訪問して下さった。現在は、同大学学長であり、大学経営の苦労話を共有し、おおいに盛り



上がった。

同大学からは、生命環境科学研究科の東条先生の研究室でも交換留学生を受け入れており、そして来年も受け入れる予定なので、この場を使って、紹介した。Jean-Marc Ogier 先生は、工学だけでなく、複数の研究科で交流実績があることをとても喜ばれ、もっと、ダブルデグリーなどいろいろ一緒にプログラムを組もうということになった。



たまたま、東条先生は、ハワイ大学と米国農務省の方を招へいされており、皆で一緒に会食をした。個々の交流が、グループの交流になったり、組織の交流になったり、いろいろモデルケースを確立したい。Greater OPU として、世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

#### 11月21日 卒業生との交流が一段落

6月と11月には いろいろな同窓会があり、OB/OG に 日ごろの大学への支援を感謝するとともに、大学運営にいろいろな意見を 聞くいい場だ。なかでも ホームカミングデーには、243名の参加を得た。来年は、創基135周年なので、アンケート結果次第では もっと 盛大なイベントを企画しようと思う。



岡山同窓会は、なんと 発足 50周年。第一回（なんと 66名参加）から 参加された方もおられた。就職して はじめて 岡山に来た方は、この同窓会の つながりが とても 大きかったということだ。50年前は新幹線もなく、スマホもなく、「離れたところに一人で来た」と感じた方も多かったのだろう。



広島同窓会、経営者交流会でも大学に対する激励の言葉を頂いた。4年だけの場であったはずだし、お互いが同時期にキャンパスにいたわけでもないのに、「今 あるのは、青春時代に府大で過ごしたおかげだ。できることは支援する」と言われると「学びの場」の大切さ・ありがたさを感じる。



#### 11月22日 泰日工業大学からの来訪（11月20日）

さくらサイエンスプランを活用して、タイの泰日工業大学の教員・学生が来日中だ。その合間を縫って、私を訪問してくれた。同校に対しては、府大独自のインターンシッププログラムを構築していて、毎年、数名の学生が半年間滞在するほか、同校を卒業して本学の修士に試験を受けて入学する学生も出ている。また、府大から同校に長期留学する学生がこれまでに2名いている他、短期のサマープログラムに参加する学生も出ている。



招へいは、現代システム科学域の佐賀准教授で、引率は Thongchai Kaewkiriya 先生。どちらも私の教え子。どちらも定年までまだまだ時間があるので、末永く交流してほしいと思う。世界に翔く地域の信頼拠点として。

#### 11月23日 図表を書いて主張すること

卒業後、企業に就職してすぐ、作図、作表のシステムの設計を命じられた。研究ではなく、つまらなかった。いやだったが仕方ない。しかし、いろいろな図を書いたり、田形表を書くことにより、単に文章や数字の羅列ではわからないことを見えることに気づかされた。いや体に覚えこまされた。ピボットテーブルを学んだのもそのころだ。

数字を図表にするだけでなく、考えを図表にすることの面白さ、「分かるということは分けるということ」だという考えから「図表に描く面白さ」を学んだように思う。ポンチ絵もその一種だ。

今でも会議で資料が出てきたときに、「やりたいことを相手に分かってもらうためには、それと現状、競合相手、代替案と図表で分ける工夫をしてほしい。デフォルメで考えを強調してほしい」とよくいう自分に気づく。研究でも大学運営でもアイデアの説明に工夫が必要なのは一緒だ。



#### 11月24日 ノイウルム大学（ドイツ）来校（22日）



4名の教員、24名の学生が訪問してくれた。7月にメールがあつて、「研修旅行に日本に行くので立ち寄りしたい」というこ

とだったが、引き受けた時には、これほどの人数に来てもらえるとは思っていなかった。植物工場や物質系の研究室の見学をアレンジして、満足していただけた。

話してみると、Applied Science 専門と言い、総合大学ではなく、ビジネススクールに近い学校だった。自動車産業や健康産業の地にあるらしく、産業界を牽引する人材を育成しているという。日本では、大手自動車メーカーやチャイルドシートのメーカーを訪問して、訪問大学は本学だけだった。私の2012年の論文を見て、訪問先として選んでくれたので悪い気はしない。

#### 11月25日 鈴木大地 スポーツ庁長官をお迎えして

23日、大阪市立大学、関西大学と連携した公開講座を開催した。ソウル五輪の背泳で金メダルを取られた鈴木長官に講演をいただき、その後、三大学の健康関連の研究をされている先生に話して頂くパネル討論を行った。

健康寿命を延ばすためにはスポーツを続けることが大切だ。速足で歩くだけでも平均寿命が変わるそうだ。食事はゆっくり頂くほうがいい。（学長室で朝ラジオ体操をしようと呼び掛けている）



長官から、ソウル五輪で「距離が90メートルだとある選手に追いつけなかっただろう」、「110メートルだったら別の選手に抜かれただろう」、「100メートルで勝つためにいろいろな工夫をした」という思い出話を聞いた。この話から学ぶことがある。関係者の皆様、準備含めてお疲れさまでした。

11月26日 IRISとSiMS、そして副専攻

先日の話。ある懇親会で、大学院に進学する理系女子学生がいたので、

私：進学したらIRISに入って活動してみては？

その学生A：IRISって何ですか？

私：・・・(意外と知られていないのかな)・・・

別の男子学生B：知らないの。あれって確か5年生のリーディングプログラムだよ！

私：・・・(おいおい、ちょっと待って)・・・

学生C：それって何？

私：・・・(あれっ、話に変な方向に)・・・

学生D：副専攻っていうものではないの？

私：・・・(う～ん)・・・

学内でいろいろプログラムを用意してもなかなか学生さんに伝わらないんだと改めて反省した。いわんや高校生(受験生)に府大の魅力・特徴を伝えるのは至難の業なのだろうか。

同じようなことはまだまだあるのだろう。全員広報宣言。皆で、プログラムを説明する力をつけて、実際に説明することが大切だ。



11月27日 当面の予定

12月6日 公大協第3委員会にて上京、7日午前 羽曳野キャンパス

13日、14日 カンボジア出張、18日午後 高専、月例会議、22日 経営会議 (I-site)

1月10日 陵友会新年会 (梅田)

13日ー14日 センター試験

17日 九工大(飯塚)経営協議会

19日 霞が関同窓会

25日 公大協学長会議にて上京

2月4日 東京同窓会 (明治記念館)



11月28日 SDGs (持続可能な開発目標)

国連では、2015年を期限とする8つの目標をもって、それをMDGs (Millennium Development Goals)と呼んでいた、これは、開発途上国の目標であったが、2015年の9月にSDGsとして「すべての国を対象とするように衣替えした。SDGsでは、2030年を期限としたもので、17の目標に169のターゲットがある。(17というと簡単には覚えきれないかもしれない)

「自分は何に貢献するのか」あるいは「あの人の仕事はどれにかんれんするのか」「行政の政策はどの目標のためか」など考えたり議論してみるのなかなか楽しいものだと思う。目標に対して、サブ目標を考えたり、達成するための手段・代替案を考える。どうだろう。

#### 11月29日 海外留学体験記

今年から学会プラスという渡航支援を行っている。学会発表の途上に、本学と交流協定を締結している大学・研究機関を訪問して、交流し、そのレポートを出した場合に渡航費の一部を支援するというものだ。

学生の体験をきちんと文書・写真として表し（表出化+自省）、それを収集し（一覧化）、それを閲覧できるようにする（公開）。それを他の学生が読んで「自分も行こう」となってくれる（活性化）こと（スパイラルに渡航者が増え、学内のグローバル化が進む）を期待している。きっと教職員にも副作用としていい効果があるだろう。そう思う。

#### 11月30日 Society 5.0

就職活動をしている学生さんたちはこの言葉を聞いたことがあるだろうか。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、新たな社会を指すものとして提唱されたものだ。

私自身はまだ十分租借しきれていないし、知人に聞くとそれぞれのバックグラウンドで理解が違うので、画一的な理解は難しいような気がする。ただ、大きな枠組みとして、実世界とサイバー空間の融合した社会であり、そのような社会でどう生きるかを考え、議論し、課題を共有することが大切だ。特にこれから就労という新しい世界に翔こうとする学生さんには。

12月1日 みかん、ありがとうございます。

先日出席した岡山同窓会でお会いしたOBの方からミカンをたくさん送っていただいた。ミカンは季節のものだ。もう師走。11月下旬は少し予定が楽だったので いろいろなことを調べたり考えることができた。来週からは、また予定がすし詰め。



12月2日 棒磁石を見ると思い出す。

以前、日本語をよく勉強してきた留学生がいた。「このチラシを白板に貼っておいて」とお願いして出かけて戻ってみたら、糊で貼ってあった。言葉は難しい。全員広報グッズで磁石を作ってもらった時、また、このことを思い出した。逆のことをいっぱいしているのだろう。



12月3日 はしだのりひさんの訃報

私が中学生時代だったと思う。フォークル（フォーク・クルセダーズ）の「帰って来たヨッパライ」という歌に衝撃を受けた（実は自分の小遣いで買った初めてのレコード）。歌を早回ししたものとセリフを通常速度で録音したこと、当時、社会問題だった飲酒運転による交通事故、東北弁と関西弁の取り合わせなど今でも忘れない。

このメンバーだったはしださんは、フォークル解散後（解散コンサートのLPも大切に持っていた）、別のグループを結成して「風」という歌を唄っている。先日、学長顕彰の時に「風」の話を考えた時に、ふとこの「風」とボブ・ディランの「風に吹かれて」を思い出して歌詞を確認していた。あいにく、私の語りたかったこととあわなかつたので引用しなかつたが、そのとき思い出していた。歌詞、メロディー……。青春ははるか昔のことだ。合掌。

12月4日 関西におけるCOC事業の成果と今後の展開

このイベントでは、教育という側面、大学改革という側面、FDの側面などいろいろな切り口があって、なかなか面白かった。準備して下さった関係者に感謝する。

学生の地域実践活動は地域から見ると生涯学習につながるのではないかと考えている。また、地域から学ぶと同時にグローバルに学ぶ視点もいると思う。今後の展開としてこの二つの視点を大切にしたい。



--- (今回のイベント概要) -----

府大・市大共同で「大阪の再生・賦活と安全・安心の創生をめざす地域志向教育の実践」をテーマに、文科省「地（知）の拠点整備事業（COC事業）」を進めている。本シンポジウムでは、5年の間に変革した教育プログラムや、フィールドワークを中心とする授業内容、自治体や地域住民との連携強化、学生の成長等について、両大学から報告した。またパネル討論では、各大学の成果報告や、COCの後継事業「地（知）の拠点大学による地域創生推進事業（COC+）」への継承について討論した。



## 12月5日 府大のロゴ

三大学が統合したときに考案されたものです。

-----  
本学の校章は、府立の3大学が統合し「公立大学法人 大阪府立大学」として開学することを機に、デザインを公募、応募総数566点の作品の中から選考、平成17年、新大学のスタートにあわせ 制定しました。

大阪の木である「いちょう」をモチーフに 大学が統合し 新たな大学となることを表し、3枚のいちょうの葉には 歴史ある3大学の伝統を引き継ぎ、発展する姿をイメージさせています。

また、スクールカラーは、「知」の創造拠点を目指し 飛躍する大学として、はつらつとしたイメージを感じさせる「ウルトラマリブルー」としました。



## 12月6日 親子三代かけて造った彫刻などを見学（9月23日）

9月に一週間にわたる訪台があり、下書きのまま残していた写真と記事を思い出した。帰国日のフライトが午後だったこともあり、故宮博物館を立ち寄った。

多くの文化遺産を堪能し、親子三代かけてつくった（すごいなあ）という彫刻などをみると、自分のやっていることの小ささを感じざるをえない。自分の分野（情報システム）の業績はよほど基礎的なことでないと10年ももたないのではないだろうか。博物館、美術館、芸能、などを同じものを見ても年齢とともに得るものが異なる。



## 12月7日 イギリスからの来訪者

「トビタテ！留学 JAPAN」というプログラムでイギリスに留学していた工学研究科の長野君が、逆にその留学先の学生さんが来日したということで会いに来てくれた。Fiona Belbin さんでブリストル大学の Ph.D Candidate だ。

イギリスは EC を離脱し、また、スコットランドの独立機運がある。ヨーロッパあちこちで移民政策の議論が活発化している。日本も少子高齢化が進む今後どうなるのだろう。欧米の学生とこういうことなどを府大の学生さんには議論してほしい。週末は研究室の学生さんが神戸の酒蔵等を案内したという。こういう機会を留学した学生さんがどんどんつくっていってくれる。一つの動きが連鎖を起こすという嬉しい動きだ。



## 12月8日 取材に応じ、IRISメンバーと懇談

大学のいろいろな活動の特集取材があり、手分けして対応している。その中にリケジョのテーマがあり、真嶋先生(女性研究者支援センター長)とともに工学研究科の清水さんと理学系研究科の丸本さんにお話をお聞きした。(全員で広報をしたい!)

お話の内容は、出版され次第紹介するが、お二人ともIR



ISのメンバーで「サイエンスキャンパス」や「未来の博士育成ラボ」で違う専攻のメンバーと一緒にTAを行い、新たな視点を得たり、参加している子供の反応に喜びを感じたという。高校時代に周りに理系進学が少ない環境から数理工学を選んだ清水さん、オープンキャンパスに来てIRISのことをそのときから知っていて生物科学を専攻している丸本さん、笑顔がすてきなお二人の活躍を期待している。



## 12月9日 公認会計士試験 合格おめでとう!

先に大学のHPでもアナウンスされているが、現代システム科学域 マネジメント学類の井上 総一郎さん、角谷 建瑠さん、平岩 弥樹さん、葎 良介さんの4名が、公認会計士試験に合格。先輩の長谷川真哉さん(2014年卒業)と一緒に報告に来てくれた。

最初に 短答式の問題があり、ここでの合格率が10%、次に3日間に渡る論文式の問題があり、こちらの合格率は、3分の1前後という難関の資格。合格すると、研修期間があり、約200人が一緒に受講する中で、長谷川さんはなんと首席で修了。銀杯を授与されたという。

今回来てくれた4人は、早くから将来の希望が確定したので、(幅広い学びを期待している)現代システム科学域のカリキュラムについてどうだったかの議論をした。「科目名からみて、何が履修目的なのか分からないものがあつた」というような率直な意見ももらった。私からは、大学で学ぶことにより、生涯、学び続ける習慣をつけてほしいと思っていることを伝えた。

会計学には、財務会計、管理会計などまだまだ深いところがある。将来、経験を積んだのちに、大学院に戻ってきてくれて学びなおしてくれるといいなと思う。母校が母港であるためにも。



## 12月10日 資格試験受験者への激励

資格試験には大きく二種類に分かれるような気がする。定数というか総数に規制があり、極めて難関のものだ。昨日紹介した公認会計士や弁護士資格はこのカテゴリーだろう。大学での勉強だけでは不足でセカンドスクールなどで学ぶ人もいると聞く。

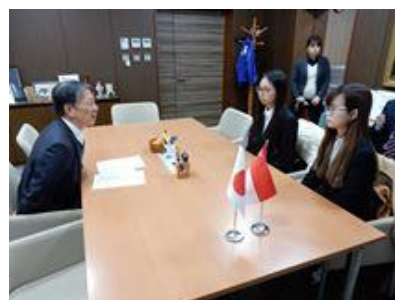
一方で、大学である勉強（実習を含む）をしっかり終えていれば、（実務経験がなくても）全員合格もありうる資格もある。看護師資格などはそうだろう。これらの資格では、試験合格を前提として、就職活動が進むことが多い。そのため、万一、不合格になると、就職ができなくなる（従って収入が期待できなくなる）だけでなく、就職先にも迷惑をかけてしまい、大学への信頼をなくしたり、後輩の就職活動にも影響を与えかねない。

最近、本学の一部の試験合格率が急激に下がっていて心配している。若い時にはいろいろな悩みなどがでたりして受験勉強に集中できないこともあるのかもしれない。そういうときには、周りの人と相談したり、本を読んだりして、乗り越えてほしい。多くの資格試験の日程が迫っているので、集中して取り組んで、受験する以上は、全員合格を果たしてほしい。仮にアルバイトで忙しくて受験勉強がおろそかになっているというのであれば、不合格で収入を得られなくなるのとどちらが得かをよく考えてほしい。学生さんたち同士でお互いに激励しあうこともしてほしい。

12月11日 堺市の事業で シンガポール国立大学生が 来学

堺・アセアンウィークの理工系学生交流事業の一環で、二人の学生が 理学系研究科生物科学専攻の 藤井先生の研究室に 2週間滞在する。その初日に 学長室に立ち寄ってくれた。二人とも大の親日家で何度も 来日しており、日本語も ペラペラ。英語、中国語、日本語がどれも 通訳できるレベルという。（いろいろ 聞いてみたところ、村度と文鎮だけが すぐに 分からない単語だった）

ちょうど、卒業生から ミカンを送ってもらっていたので、一緒に食べながら、中学・高校時代のこと、交通事情、留学する理由などいろいろな話を 聞いた。府大生といっぱい交流して、お互いに異文化を感じながら学びあってほしい。（こういう機会を設けてくださる堺市に感謝する）



12月12日 カンボジアに出張中の府大関係者へ

この七年間、力（知カラ）を入れてきた一つがカンボジアとの交流。情報・システム系の学会の共同運営とアントレプレナー教育の共同実施を長〜い時間をかけて計画し、今週に両方を行うため、多くの教員、職員、学生が訪問してくれている。

訪問中の皆さん、ぜひ、流れ星を見てください。

12月13日 大学のHPに掲載したメッセージを共有します。

これまで、大学祭や色々な場でお話ししていますが、短時間で説明しきるのは難しいし、短文でコメントするのは、なお 難しいです。

-----「法人統合について」学長からのメッセージ

大阪府立大学、大阪市立大学の設立団体である大阪府、大阪市において、新大学への1ステップとしてまず法人統合を2019年4月に行うことをめざして両大学を運営する公立大学法人大阪府立

大学と公立大学法人大阪市立大学の新設合併に関する議案がそれぞれの議会に提出され、大阪府議会においては11月8日に可決されましたが、大阪市会においては12月12日に継続審議となりました。

今後も引き続き、大阪市の動向を注視しながら、学内関係者やステークホルダーの皆様のご意見も参考にしつつ、魅力ある新大学の実現に向け、市立大学や府市とともに取り組んでまいります。なお、法人を統合した場合であっても、大阪府立大学と大阪市立大学は存続するので、在校生の学生生活に影響はありません。

入試については現行通り大阪府立大学として実施してまいります。受験生の皆さんのチャレンジをお待ちしています。 2017年12月12日 公立大学法人大阪府立大学 理事長・学長 辻 洋.

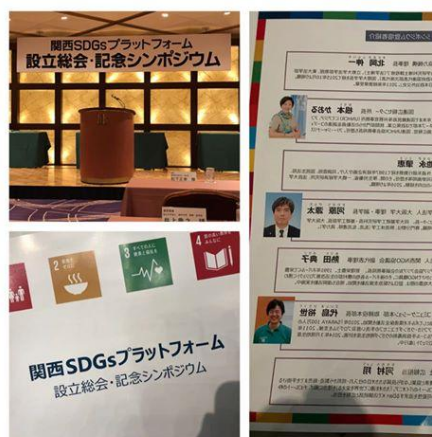
### 12月14日 メコン川の夜明け

アントレプレナー教育と学会参加のため、プノンペンにきている。詳細は帰国後に。色々な意味で暑い。熱い。あつい。



### 12月15日 つばさ基金ご協力依頼のお願い

府大・高専の関係者へのお願い。年末にむけて、周辺（ゼミや研究室のOB、学生さんの保護者、共同研究先など）につばさ基金の説明とお願いをしてください。ポイントは、(1)クレジットカードでも行える、(2)ふるさと納税制度を利用（収入と家族構成で納税額を見つけると、実質2000円負担、そのためには確定申告が必要）、(3)大阪在住者でなくてもよい。これにより、大学の教育・研究環境の充実を図ることができます。これまでもI-Site なんば、I-Wing なかもずをはじめ、クラブの部品など、多くに使わせていただき感謝しています。ご協力をよろしくお願いします。



### 12月16日

関西 SDGs プラットフォーム設立総会・記念シンポジウムに出席した。141の機関が賛同。関西の主たる自治体、企業、大学、市民団体が名を連ねる。持続可能な世界を目指すのは現代システム科学域だけでなく府大全体の課題でもある。

### 12月17日

昨日（12月16日）の、関西 SDGs プラットフォーム設立総会は、JICA 関西が主催であり、今後の運営を担う事務局だ。この JICA の理念は、「信頼で世界をつなぐ (Leading the world with trust)」。本学の理念である「高度研究型大学：世界に翔く地域の信頼拠点」と通じるところがあると思うがどうだろう。北岡伸一 JICA 理事長の講演においても、「SDGs への多様なアプローチと多様なアクターの協働・シナジーの可能性」と題したパネル討論においても 本学が大切にしている「多様」「融合」「国際」が 散りばめられた話だった。

この理念は、ここで書かれているように、平成 21 年度に、今後の大学のあり方を自ら検討する必要があるという認識のもとに、まとめたものだ。大切にしたい。

私は、教員も職員も学生も自分にとって「世界に翔く地域の信頼拠点」とは何かを問い続け、周囲の方と語り合い、三つの視点を大切に日々を過ごしてほしいと思う。SDGs の G は Goal 。 17 つある。自分の活動がどれにあてはまるかチェックしてみてもどうだろう。

12 月 17 日

大阪府とフランスのヴァ  
ルドワーズ県は 姉妹県で、  
その関係で 同県の大学と交  
流をしている。今回、同県の  
県民報 (?) に交流時の挨拶



*"Au nom de l'Université de la Préfecture d'Osaka (OPU), je voudrais joindre mes sincères félicitations au 30<sup>e</sup> anniversaire des relations entre le Val d'Oise et la Préfecture d'Osaka. Depuis trois décades, l'OPU a développé les échanges avec les acteurs de l'enseignement supérieur: Université de Cergy-Pontoise (UCP), EISTI, ENSEA, EBI. Plus de 250 étudiants, en comptant ceux en double diplôme, participent à nos échanges. J'espère que nous pourrions approfondir nos relations amicales pour contribuer au développement de nos deux régions."*

Dr. Hiroshi Tsuji, président de l'Université de la Préfecture d'Osaka

VAL D'OISE - Le magazine du Conseil départemental

を掲載してもらった。少しでも 府大の名前が知られて、さらに 優秀な学生が留学を希望してく  
れることを願う。以下は、バンジェ先生に訳をお願いしたもの。

-----大阪府立大学 (OPU) を代表し、ヴァルドワーズ県と大阪府との交流 30 周年を心からお  
祝いたします。30 年前から、OPU は Cergy-Pontoise 大学、EISTI、ENSEA、EBI という高等  
教育関係者との交流を発展させてきました。ダブルディグリーの学生を含め、250 名以上の学生  
が 私たちの交流に 参加しています。両地域の発展に貢献するため 私たちの友好関係を さらに深  
めることを望んでおります。

12 月 18 日 カンボジアでの学会 (12 月 12 日ー14 日)

過去 6 回にわたり、Asian Conference on Information Systems (ACIS) という学会をアセアン  
諸国で開催してきた。この会議は、電気学会の情報システム研究会の支援のもと行ったものだが、  
府大関係者がいろいろな裏方を務めてきた。

私が最初カンボジアを訪問したときに、先方から「自国で ICT 関係の国際会議を開催したい、  
開催できるようにしたい」という要望を聞いて、2012 年、同国で開催したのが第一回だ。少しで  
もカンボジアの若い教員、学生に発表の機会を提供したいと思った。今回は、6 回目。残念ながら、  
電気学会としては、一区切りつけるということで「継続しない」ことを決定したそうだ。何事にも  
「新たな始まりがあれば、終わりもある」ということだろう。次を考えることが大切だ。

すでに、さくらサイエンスプランを用いた招へいだけでなく、アントレプレナー教育の共同実施  
など、次の計画が着実に動き出していることが嬉しい。

12 月 19 日 アントレプレナー共同教育のキックオフシンポジウム (14 日)

文科省の支援を受けて起業家の教育プログラムを構築している。その一環で、カンボジアでの現  
地課題 (今回は、現地の交通事故をいかに減らすか) を共有し、その解決を議論し、ピッチトーク  
するイベントをプノンペンで行った (教員、職員、院生、学域生、高専生が参加)。

我々の受けてきた従来の教育のほとんどは、問題が与えられそれに対する回答を行うものだった。  
回答には正解と不正解があってそれで評価される。

しかし、地域課題の多くは、問題の本質が何かかわからず、まずそれを共有しなければならない。問題を共有しても、何が正解かわからないし、ある時点では解となりえても別の時点では解にならないものもある。また、その地域では解となりえても別の地域では解にならないものもある。また、万能の解があったとしてもそれが別の大きな問題を生じるのであれば、採用することができない。



府大生には、こういう地域課題をグローバルに把握し、経済的に（ビジネス的に）成立する解を求める力を育ててほしい。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。

12月20日 年末・年始を控え、お体を大切に！

他人事ではない。若いころには、健康を崩すことがほとんどなかったのに、ここ数年、年に数度、休まざるをえない状態になる。18日、19日も体調を崩して休みを頂いた。会議のドタキャンをしまい多くの方に迷惑をかけた。また、今後の懇親会などもドタキャンさせてもらうことになった。楽しみにしていただけに残念だ。

鼻水が出て、腹痛がするので、最悪インフルエンザではないかと検査してもらったところ、(一)だった。しかし、CRPが多いという。炎症反応がある。「えっ?」。ひょっとすると先般の渡航中に何かにあたったのだろうか。飲食には十分気を付けていたので、そんなことはないはずだ。

メリハリをつけて、無理をしていないつもりだが、年齢には勝てないのかもしれない。少し、落ち込んでいる。

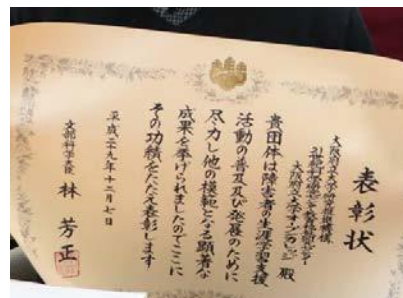
12月21日

先日、カンボジアでのEDGE教育でコーディネートして下さったポコ先生のポストです。大変お世話になりました。本学の教職員、学生を誇りに思える暖かいそして嬉しい言葉を頂いています。



12月22日 オプカレの皆さん、文部科学大臣賞受賞おめでとう

先日、紹介していたオープンカレッジ運営の学生スタッフが賞状をもって学長室に来てくれた。長年にわたる活動が評価されたのだから、現役のスタッフだけでなく、OB・OGの努力・活躍に負うところが多い。指導に当たってこられた顧問の先生含め、すべての関係者にお祝いと大学の名誉を高めて頂いたお礼を申し上げます。



オプカレは20年の歴史をもち、地域の知的障害をもつ方に2年（開始当初は4年だった）に渡り、2か月に一度程度大学で学びの機会を提供するものだ。応募者が多く、抽選になる。いろいろなテーマの講義があり、府大内外の教員が担当する。この活動は府大のOBが他大学で勤務する中でも展開し、その彼らも今回受賞したという。



スタッフの中には、卒業式や入学式で手話通訳してくれた学生もいた。今後の資格取得に向けて努力しているようだ。留学希望の話も聞いた。活動初紹介するポスター2枚はしばらく借用して学長室に掲示しておくことにした。これも大学の広報！



来年3月の卒業式に招待してもらった。日程を確保して参加したい。

12月23日 今年の十大ニュース

今週は4件予定していた忘年会、懇親会、職場旅行を全てキャンセルさせてもらった。体調のためとはいえ、残念であり、また申し訳なく思っている。おかげで睡眠負債を償還できた気がする。

今日も本学OBの東野圭吾さん原作の新参者をTVerで見てリフレッシュした。小説の中に中百舌鳥キャンパスを感じるところがあると何となく嬉しいのは私だけだろうか？

少し時間もあったので、私にとっての今年の出来事を振り返ったり年賀状を書いたりもした。認証評価のこと、市大荒川学長との交流、海外出張、同窓会、保護者との交流、学生との面談、……。周りの意見も聞いて年内の発表しようと思う。

12月24日 十大ニュース

一年の思い出しを行った。大学としてのニュース、学長室としてのニュース、個人としてのニュースなどいろいろあったと改めて思う。皆さんもそれぞれ思い出したり周囲の方と話し合っただろう。ここでは学長室として、学内特有や法人特有の話題（職制変更、支援事業、高専連携など）を除いて、リストアップしてみた。

(1) 外部機関による認証評価で、「研究活動」「地域貢献活動」の両部門で「極めて良好」という最高位の評価を得た。

(2) 日経「人事部門が評価する大学のイメージ調査」で全国第9位にランキングされた。

(3) ホームカミングデーはじめ、多くの卒業生との交流の場に参加して、

大学への支援をお願いし、交流を深めた。

- (4) 春と秋に保護者の方に大学を知っていただくイベントを企画し、多数の参加を得た。
- (5) 大阪市大の荒川哲男学長と、超学校での講義@グランフロント、花まつり@中百舌鳥キャンパス、ポート祭@大川はじめ多くの場で両大学の連携を深めた。
- (6) 教職員や学生の方と一緒に、ポッチャ協会公認の一般審判員資格を取得し、日本選手権で審判をした。
- (7) 米国、欧州、台湾、カンボジアと4回にわたり渡航した。
- (8) 百舌鳥・古市古墳群の世界遺産の日本推薦を得た時にテレビ、新聞に写った。
- (9) ゲストプロフェッサ制度やさくらサイエンスプランの来訪者と面談・懇談・会食を定着へ。
- (10) 「研究で」「課外活動で」「国際交流で」「難関資格取得で」といろいろな分野で活躍した学生さんと面談。

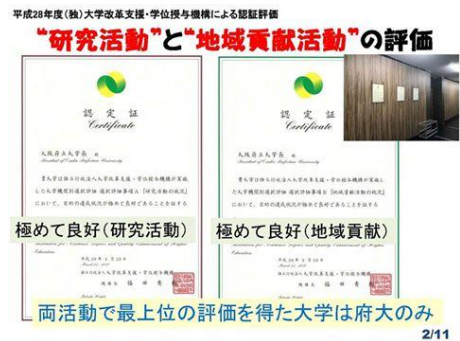
これらの項目について、写真とともに25日～3日の年末年始に振り返りを書いてみたい。

### 12月25日 十大ニュース(1) 7年に一度の認証評価結果

大学は7年に一度、認証評価機関により、評価されることになっている。その中で選択で「研究活動」「地域貢献活動」を評価してもらったところ、両部門で「極めて良好」という最高位の評価を得た。

評価頂いた委員からは、「大学の方針(トップダウン)と個々の教員の独自性(ボトムアップ)のバランスがいい」「(一部ではなく)全員で取り組んでいる」「府大としての型(モデル)を確立している」というコメントを頂いた。21世紀科学研究センター方式や産学官金連携モデルの理解を得たのが嬉しい。

評価には、在学生、卒業生だけでなく、若手教員へのインタビューもされる。それらを通じてこの評価を得たのは、Greater OPUとしての関係者すべての貢献によるところが多い。発表のスライドに入れたり、廊下に掲載したCertificateを来客者に説明して、自分が自慢できることを感謝している。



### 12月26日 十大ニュース(2) 人事部門が評価する大学のイメージ調査結果

上記の日経調査で全国第9位にランキングされた。この冊子は学長室への来訪者が気づくように目立つところにおいている。具体的な評価データでこのように実証されると嬉しいが、多くの会社の方から「府大OBは困難があっても逃げない」「入社してからもとても伸びる」「お祭りが好き」などという主観的な声をよく聞く。

項目	順位
行動力	8位
対人力	15位
知力・学力	12位
独創性	16位

総合ランキング9位にランクイン

私は、保護者の方にお会いするときや同窓会などの挨拶で、このことをスライドで示して紹介している。そのとき、喜んでもら



えることが誇りだ。拍手が起こることもある。多くのOB/OGが活躍されているので、このような評価を得ているのだろう。繰り返し広報していきたい。

在学生の皆さんも、冬休みに母校に顔を出すことがあるなら、ぜひ、後輩に伝えてほしい。府大は全員が広報員として情報発信することになっている。

(十大ニュースは、25日の投稿から3日まで一件ずつ紹介する予定)

### 12月27日 十大ニュース(3) Greater OPUの構築に向けて

ホームカミングデーはじめ、斐文会(大阪女子大)、白鳥会(写真)、東京・名古屋・岡山・広島同窓会、陵友会、関西私鉄五社会など卒業生との交流の場に出席して交流を深めた。霞が関で勤務されている方との会もあれば経営者になっておられる方との会もある。米国出張の機会があったので、シリコンバレーでも集まっていた。



逆に多くのOB/OGが、大学行事に参加してくれたり、講演・講義してくれたり、さらには学長室にも顔を出してくれた。ライブラリートークでは、芥川賞作家の柴崎さんが学生時代の思い出を含めて語って下さった(写真)。私は、「春の庭」にサインを頂いた。



「今あるのは、大阪府の税金で勉強させてもらったおかげだ」という苦学されていた先輩の言葉が耳に残る。苦言を呈されることも多いが、それも母校愛からくるのだろう。府大関係者の大きなネットワーク Greater OPUの拡大を図っていききたい。関係者のご協力ご支援をお願いします。



【追伸】「OPU-Net 翔」にぜひ登録してください。これは、卒業生名簿を基盤とした大学、校友会、各同窓会、OB・OG間の双方向コミュニケーションサイトです。

<https://www.opucr.osakafu-u.ac.jp/tsunagaru/opu-net/>  
毎週メルマガが届きます。

### 12月28日 十大ニュース(4) 保護者の方にも大学を知ってほしい

最近、入学式でも学位記授与式でも家族の方の参加が増えている。以前とは違うが、大学のことを少しでも知っていただきたいし、応援もお願いしたい。ときには、厳しい指摘を頂くこともあるが、それも謙虚にお聞きしたり、丁寧に大学の事情を説明しなければならない。



今年は、はじめて、春(友好祭期間中)と秋(白鷺祭期間中)に保護者の方に大学にきていただくイベントを企画し、多数の参加を得た。学生の発表は特に好評で、また、府大OBの職員

が案内するキャンパスツアーでは多くの質問がでた。

反省点もあるので、来年はさらにバージョンアップしてご案内したい。保護者の方からの「ふるさと納税」が急増しており、大学を支援いただけることをありがたく思っている。  
(十大ニュースは年末・年始に一件ずつ振り返っています)

12月29日十大ニュース(5) 大阪市立大学の荒川学長と昨日が仕事納めで、六日間の冬休みに入っています。ゆっくりと自宅で静養する予定です。今年の振り返りも前半の最後。

松井大阪府知事、吉村大阪市長からは、大阪の発展のために、大阪市立大学と連携していろいろな事業をするとともに、今の中期計画期間中に統合できるよう準備することを指示されている。大学法人として、目標を与えられ、それを進めるのが理事長としての立場だ。

そのためには、両大学がそれぞれプレゼンスをあげる努力をしなければならないし、何をすべきか、何をいつまでにするか・できるか、などお互いを理解しあうことなしには何も進まない。「サムライ」を自称する大阪市大の荒川哲男学長とは、いろいろな場でご一緒させていただいた。

特に、超学校@グランフロントでワイン片手に対談形式の講義、本学の花まつり(子供たちの人気はV仮面に奪われた)、市大の伝統あるボート祭での学長レース(申し訳ないが今年も勝たせていただいた)では親睦を深めた。それらの交流を通して、荒川先生からいろいろな方を紹介いただいたのは私の財産。両大学の動きは、来年も全国の大学関係者から見られるだろう。



12月30日 十大ニュース(6) 多様性とダイバーシティ研究環境



本学が大切にしている視点は、多様、融合、国際だ。多様というダイバーシティ。自分の年になってもまだまだ世の中のことを知らない。このことでもいろいろなことを学んだ。また、大学の制度としても少しずつ整備できたのではないかと思います。

パラリンピックの競技にボッチャというのが。日本チームにはぜひ東京で金メダルをとってもらいたいと願っている。私も教職員や学生の方と一緒に、

ボッチャ協会公認の一般審判員資格を取得し、日本選手権で審判をした。久しぶりに一種独特の緊張感を味わった。知的障害者の学習支援ではオプカレが団体で文部科学大臣賞、男女共同参画社会づくりでは田間教授が内閣総理大臣賞を受賞。私はあちこちでこれらの活動を広報している。世界に翔く地域の信頼拠点になるために。



12月31日 十大ニュース(7)

今年一年、ありがとうございました。なんとか、一日一件の投稿を続けることができました。学長就任からなかなかゆっくり海外に出かけられなかったのですが、今年は、カンボジア出張こそ強行でしたが、米国、欧州、台湾は一週間訪問できました。どうぞよい年をお迎えください。



4月の米国訪問ではジョージア大学で10年来共同研究をしている教授を訪問。その後シリコンバレーで同窓会を開くとともに堺市-バークレー市の友好行事出席(写真)、UCバークレー訪問。この結果は夏に府大でのシンポジウムの結びついた。最後にニューメキシコ大学を訪問。アントレプレナー教育のこと、NEDO設備の活用について打合せできた。



7月のドイツは研究会での基調講演に招待された。その後、カイザウストラウテルン大学を訪問し学長と面会、こことは、教員の交換、学生の交換を多数行っており、府大と交流20年になる。さらにオーストリアに移動しグラーツ工科大学を訪問。こことは、少なくとも3つの部局での交流がある。

9月には台湾政府の招待で、6つの大学、1つの研究機関をまわった。2か所で交流協定の更新を行い、台南大学とはジョイントサマープログラムを企画することで合意し、今、準備を進めてもらっている。

12月のカンボジアは府大の先生方が中心となって運営を行った国際会議とFLEDGEの延長で行うアントレプレナー教育のキックオフイベント。高専、大阪市大からの参加も得た。王立ブノンペン大学ともジョイントプログラムを開始できるよう準備を進めてもらっている。



単なる交流、共同研究、学生交換、教員交換から一歩進めた教育プログラムを作りたい。世界の翔く地域の信頼拠点になるために。